

## 1. 一般事項

## 1.1 建築物の構造設計概要

建築場所:		
主要用途:		
階数: 地下 0階 地上 2階 塔屋 0階		構造種別: 鉄骨造
建築面積:	軒の高さ:	工事種別: 新築
延べ面積:	建物高さ:	増築予定: 無
GLから1階床まで: 0 mm , パラペットの高さ: 0 mm		
構造 主要スパン数: X方向 1 , Y方向 1		
骨組形式: X方向 ラーメン形式 , Y方向 ラーメン形式		
基礎形式: 直接基礎		基礎底の深さ: 1.5 m
仕上げ等:		
屋上付属物等:		

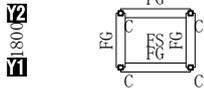
## 1.2 略伏図

### 1.2.1 床伏図

スラブの荷重伝達が一方方向の場合は符号末尾に以下の記号で伝達方向をあらわす。  
 (X)：X方向に伝達，(Y)：Y方向に伝達，(短)：短辺方向に伝達。

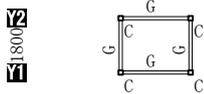
#### 1F階

**X1** 2300 **X2**



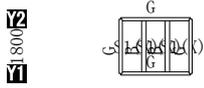
#### 2F階

**X1** 2300 **X2**



#### RF階

**X1** 2300 **X2**



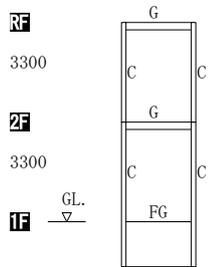
### 1.3 略軸組図

#### 1.3.1 略軸組図

壁内の破線はスリットあらわす。

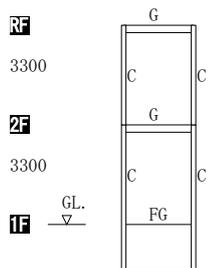
##### Y1通り

X1 2300 X2



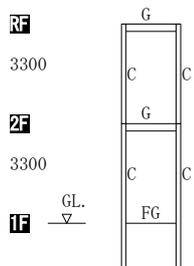
##### Y2通り

X1 2300 X2



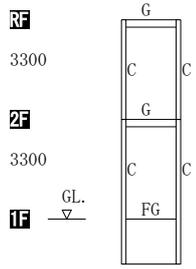
##### X1通り

Y1 800 Y2



X2通り

Y1 800 Y2



## 1.4 断面リスト

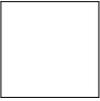
### 1.4.1 断面リスト

#### 柱リスト

1F C


150x150x6x12
コンクリート充填：なし

2F C


150x150x6x12
コンクリート充填：なし

### 大梁リスト

1F FG

左端	中央	右端
		
B : 300, D : 1500		
主筋 : D22		
ST. : D13		
@200	@200	@200

2F G


端部 : 250x125x6x9x8
中央 : 250x125x6x9x8
継手長 : 0.00 - 0.00
継手部ボルト : M20

RF G


端部 : 250x125x6x9x8
中央 : 250x125x6x9x8
継手長 : 0.00 - 0.00
継手部ボルト : M20

### 小梁リスト

符号	種別	断面寸法
B	S	H-150x150x7x10x8

## 2. 設計方針と使用材料

### 2.1 構造設計方針

#### 2.1.1 構造設計方針

---

---

---

---

---

#### 2.1.2 設計上準拠した指針・規準等

- 建築基準法・同施行令・同告示
- (財)日本建築センター「建築物の構造関係技術基準解説書」(2015)(2020)
- (財)日本建築センター「冷間成形角形鋼管設計施工マニュアル」(2003)
- (社)日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(2018)
- (社)日本建築学会「鋼構造計算規準・同解説」(2005)
- (社)日本建築学会「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(2001)
- (社)日本建築学会「鋼構造塑性設計指針」(2010)
- (社)日本建築学会「建築耐震設計における保有耐力と変形性能」(1990)

### 2.2 構造計算方針

#### 2.2.1 構造計算方針

---

---

---

---

---

#### 2.2.2 使用プログラムその他

---

---

---

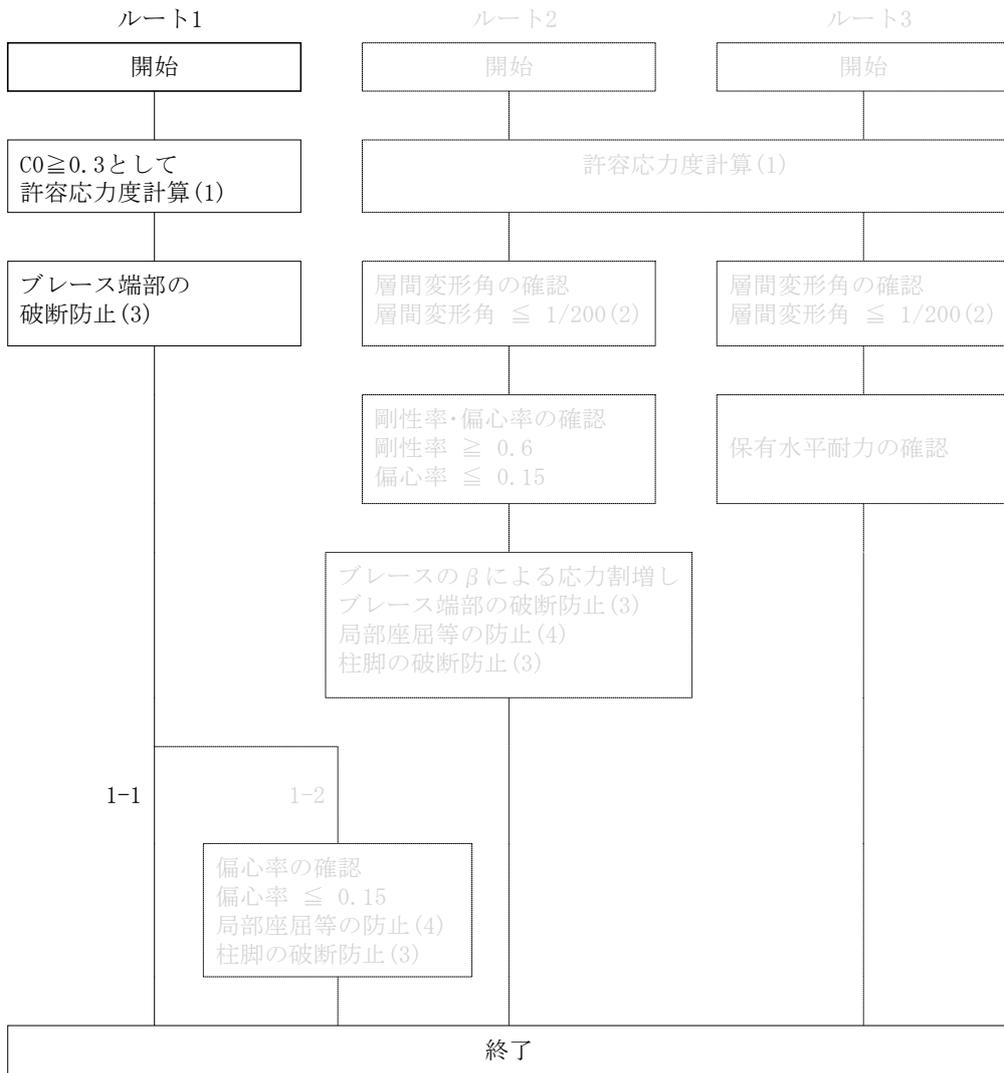
---

---

### 2.2.3 計算ルート

X方向の計算ルート：ルート1-1

Y方向の計算ルート：ルート1-1



- (1) 自重・地震力等により建物の各部に生じる応力度が許容応力度以内であることを確認する
- (2) 設計者が別途検討することにより1/120に緩和することができる
- (3) 設計者が別途検討する必要がある
- (4) 保有耐力仕口部・保有耐力横補剛についてはプログラム内で検討するが、保有耐力継手部については設計者が別途検討する必要がある

## 計算ルート判定表

○：適用可，×：適用不可

△：層間変形角の緩和規定により適用可

## X方向

項目と制限値	該当値	計算ルート		
		1-1	1-2	2
地上階数 $\leq 3$	2	○	—	—
地上階数 $\leq 2$	2	—	○	—
建物の高さ(m) $\leq 13$	6.60	○	○	—
軒の高さ(m) $\leq 9$	6.60	○	○	—
スパン長(m) $\leq 6$	2.30	○	—	—
スパン長(m) $\leq 12$	2.30	—	○	—
標準層せん断力係数 $\geq 0.3$	0.30	○	○	—
層間変形角 $\leq 1/200$	1/ 127	—	—	×
層間変形角(緩和規定) $\leq 1/120$	1/ 127	—	—	○
剛性率 $\geq 0.60$	0.372	—	—	×
偏心率 $\leq 0.15$	0.000	—	○	○
総合判定		○	○	×

## Y方向

項目と制限値	該当値	計算ルート		
		1-1	1-2	2
地上階数 $\leq 3$	2	○	—	—
地上階数 $\leq 2$	2	—	○	—
建物の高さ(m) $\leq 13$	6.60	○	○	—
軒の高さ(m) $\leq 9$	6.60	○	○	—
スパン長(m) $\leq 6$	1.80	○	—	—
スパン長(m) $\leq 12$	1.80	—	○	—
標準層せん断力係数 $\geq 0.3$	0.30	○	○	—
層間変形角 $\leq 1/200$	1/ 128	—	—	×
層間変形角(緩和規定) $\leq 1/120$	1/ 128	—	—	○
剛性率 $\geq 0.60$	0.369	—	—	×
偏心率 $\leq 0.15$	0.002	—	○	○
総合判定		○	○	×

## 2.3 使用材料・許容応力度

### 2.3.1 使用材料と使用箇所

コンクリートの使用材料

Fc21 : 1F階の梁

鉄筋の使用材料

SD295 : D13

SD345 : D22

高強度せん断補強筋の使用 : なし

鉄骨の使用材料

大梁端部 : SS400

大梁中央部 : SS400

柱 : STKR400

### 2.3.2 許容応力度・材料強度

コンクリートの許容応力度・材料強度 (N/mm<sup>2</sup>)

種別	長期許容応力度		短期許容応力度		材料強度
	圧縮	せん断	圧縮	せん断	
Fc21	7.00	0.70	14.00	1.05	21.00

鉄筋の許容応力度・材料強度 (N/mm<sup>2</sup>). ( )内の数値はD29以上の径に適用する

種別	長期許容応力度		短期許容応力度		材料強度
	引張・圧縮	せん断補強用	引張・圧縮	せん断補強用	
SD295	195	195	295	295	295
SD345	215(195)	195	345	345	345

鉄骨の許容応力度・材料強度 (N/mm<sup>2</sup>). 厚さが40mmを超える材については( )内を適用  
座屈を考慮した許容圧縮応力度・許容曲げ応力度は別途算定する

種別	長期許容応力度		短期許容応力度		材料強度
	引張・圧縮 曲げ	せん断	引張・圧縮 曲げ	せん断	
SS400	156(143)	90( 82)	235(215)	135(124)	235(215)
STKR400	156(143)	90( 82)	235(215)	135(124)	235(215)

大臣認定材料の認定番号

---



---



---



---



---

### 2.4 特別な調査又は研究の結果による場合

---



---



---



---



---

### 3. プログラムの使用状況

#### 3.1 チェックリスト

【構造計算チェックリスト】 Building Editor Ver.5.13.10.0

【建築物名称（棟毎）】 : EV

---

【記入者】 :

---

【記入年月日】 :

---

##### 【構造計算チェックリストの記入方法】

1. 【細目番号】欄：章毎の通し番号とする。通し番号の前に「追」とある細目番号は、当該プログラム特有の項目を示す。通し番号の前に「変」とある細目番号は、「記入欄」又は「数値等の制限」が当該プログラム特有の項目を示す。
2. 【非該当項目】欄：当該建築物で該当しない項目は「×」を記入する。  
当該プログラムで該当しない項目は予め「×」が記入されている。
3. 【記入欄】：該当する選択肢の○印、□印、◇印のいずれかにチェックする。互いに矛盾を生じない場合は複数選択しても良い。  
○印：一般的な選択肢（設計者の所見は不要）  
□印：設計者が所見（又は説明資料添付）を記入する必要がある選択肢。（ ）内には数字を、[ ]内には設計者の所見（又は添付する資料の番号）等を記入する。所見が[ ]内には書ききれない場合は、[資料1参照]等と記載し、資料の該当ページを【計算書の対応頁】欄に記入する。  
◇印：当該大臣認定プログラムの適用範囲外の選択肢
4. 【数値等の制限】欄：大臣認定の適用範囲を記載している。制限を超える場合は大臣認定プログラムの適用範囲外となる。
5. 【計算書の対応頁】欄：□印の項目は、【記入欄】の□印の選択肢において[ ]で構造計算書を参照した場合、構造計算書の該当ページを記入する。×印の項目は、【記入欄】の□印の選択肢がなく、設計者の所見は不要の項目。
6. 【自動判定】欄：プログラムで自動判定される項目は「自動」と記入される。プログラムで自動判定していない項目は空欄とする。
7. 「0章 メッセージ等」は、構造計算書の出力結果を確認して記入すること。「I章 実建築物の規模、構造種別及び計算ルート」「II章 実建築物の形状」「III章 実建築物に使用している建築材料」「IV章 実建築物の部材形状とモデル化」及び「IX章 その他構造細則」は、実建築物の条件を記入すること。
8. 本チェックリストは、棟毎に作成すること。

##### 注)

非認定扱いのため、「XI. 大臣認定プログラムの適用範囲【実建築物の形状】」および「XII. 大臣認定プログラムの適用範囲【実建築物の部材形状等】」は省略している。

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
0	メッセージ等							
	適用範囲外	1		①1.無 ◇2.有	*1	×	自動	
	警告メッセージ	2		①1.無 □2.有 ( ) 件		□	自動	
	警告メッセージに対する 検討	3		□1. 全て検討している [ ] ◇2. 未検討項目あり	*2	□		
	注意メッセージ	4		①1.無 ○2.有 ( ) 件		×	自動	
	異常値の有無	5		○1.無 □2.有 [ ]		□		
	構造図と構造計算 書出力の略伏図、 略軸組図との照合	6		○1.照合している ◇2.照合していない	*3	×		
	構造計画とモデル化 との対応	7		○1.確認している ◇2.確認していない	*4	×		
	別途計算している 部分に使用してい る数値との整合性	8		○1.確認している ◇2.確認していない	*5	×		
	*1 構造計算書出力に「適用範囲外」メッセージが無いこと *2 「警告」メッセージの全項目について検討が必要 *3 構造図と構造計算書出力の略伏図、略軸組図とが照合されていること *4 構造計画とモデル化との対応について確認されていること *5 別途計算している部分に使用している数値との整合性が確認されていること							

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
I	実建築物 の規模, 構造種別 及び計算 ルート	1		軒高 ( ) m 建築物高さ ( ) m 最高部高さ ( ) m	≤ 60m	×			
		2		地上 ( 2 ) 階 地下 ( 0 ) 階 塔屋 ( 0 ) 階		×			
		3		建築面積 ( ) m <sup>2</sup> 延べ床面積 ( ) m <sup>2</sup>		×			
		4		X方向 ( ) スパン, Y方向 ( ) スパン		×			
		5		X方向 ( ) m, Y方向 ( ) m		×			
		6		X方向 ( ) m, Y方向 ( ) m		×			
		7		○1. RC造 ◎2. S造 ○3. SRC造 ◇4. その他		×			
		8		○1. 無 ◇2. 有	*1	×			
		9		X方向 ◎1. ラーチ構造 ( 1F ) 階 ~ ( 2F ) 階 ○2. 耐力壁付ラーチ構造 ( ) 階 ~ ( ) 階 ○3. フレス付きラーチ構造 ( ) 階 ~ ( ) 階 ◇4. その他			×		
				Y方向 ◎1. ラーチ構造 ( 1F ) 階 ~ ( 2F ) 階 ○2. 耐力壁付ラーチ構造 ( ) 階 ~ ( ) 階 ○3. フレス付きラーチ構造 ( ) 階 ~ ( ) 階 ◇4. その他			×		
		11		○1. 直接基礎 ○a. 独立基礎 ○b. 布基礎 ○c. べた基礎 ○2. 杭基礎 □3. その他 [ ]		□			
		12		○1. 斜面地でない □2. 斜面地である		×			
		13		○1. 片土圧でない □2. 片土圧である		×			
		14		地盤種別 ○1. 第1種 ◎2. 第2種 ○3. 第3種			×	自動	
				地下水位 □1. 考慮している 地下水位 GL - ( ) m 対処方法 [ ] □2. 考慮していない 理由 [ ]			□		
		16		◎1. X方向とY方向で同じ ルート ( 1-1 ) ○2. X方向とY方向で異なる X方向: ルート ( ), Y方向: ルート ( )			×	自動	
*1	地上階におけるRC造とS造の混用は適用外								

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
II	実建築物 の形状	1		○1. 実建築物の形状が適用範囲内である ◇2. 実建築物の形状が適用範囲外である		□			
		2		○1. XYフレームの交差角度はプログラム適用範囲である ○a. 実建築物と入力データの交差角度が一致している □b. 実建築物と入力データの交差角度が一致していない □2. 交差角度はプログラム適用範囲外である		□			
		3		○1. 各フレームの平行度はプログラム適用範囲である ○a. 実建築物と入力データの平行度が一致している □b. 実建築物と入力データの平行度が一致していない □2. 平行角度はプログラム適用範囲外である		□			
		4		○1. 適用範囲を超える傾斜柱はない ○a. 実建築物と入力データの傾斜が一致している □b. 実建築物と入力データの傾斜が一致していない □2. 適用範囲を超える傾斜柱がある		□			
		5		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		6		○1. はりの傾斜(平面・立面)はプログラム適用範囲である ○a. 実建築物と入力データの傾斜が一致している □b. 実建築物と入力データの傾斜が一致していない □2. はりの傾斜はプログラム適用範囲外である		□			
		7		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		8		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		9		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		10		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		11		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		12		○1. 「4」以下 □2. 「4」を超える ( ) 転倒等の検討 [ ]		□			
		13		□1. 一の柱が当該階の軸力の20%以上を負担する隅柱を 設けた建築物 検討方法 [ ] ○2. 上記以外の建築物		□			
		14		○1. 立面及び平面形状が整形 □2. L型やコ型等の立面及び平面が不整形な建築物		□			
		15		○1. 無 □2. 有 ( 段差が1m又ははりせい以上のスキップフロア ) 検討方法 [ ]		□			
		16		○1. 四角形 荷重伝達方向 ○a. 二方向 ○b. その他 [ ] ○2. 三角形 荷重伝達方向 ○a. 各辺 ○b. その他 [ ] ○3. その他 対処方法 [ ]		□			
		17		○1. ツインター形式でない ◇2. ツインター形式である		ツインター形式 は適用外	×		
		18		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		19		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		20		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□			
		21		○1. 無 □2. 有 最大跳ね出し長さ = ( ) mm 検討方法 [ ]		□			

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
III	実建築物 に使用し ている建 築材料	1		○1. 普通コンクリート $F_c = 18 \sim 60\text{N/mm}^2$ ○2. 軽量コンクリート (I種) $F_c = 18 \sim 36\text{N/mm}^2$ ○3. 軽量コンクリート (II種) $F_c = 18 \sim 27\text{N/mm}^2$ ◇4. 上記1.～3. 以外のコンクリート		×		
		2		○1. 丸鋼 SR235, SR295 ○2. 異形鋼棒 SD295A, SD295B, SD345, SD390 ○3. 高強度せん断補強筋 (法第37条第二号大臣認定品) [ ] ◇4. 上記1.～3. 以外の鉄筋		×		
		3		○1. 建築構造用 SN400A・B・C, SNR400A・B, STKN400W・B, SN490B・C, SNR490B, STKN490B ○2. 一般構造用 SS400, STK400, SS490 ○3. 溶接構造用 SM400A・B・C, SM490A・B・C, STK490 ○4. 冷間成形角形鋼管 BCR295, BCP235, STKR400, BCP325, STKR490 ◇6. 上記1.～4. 以外の鋼材		×		
		4		○1. 高力ボルト F8T, F10T □2. 上記以外のボルト	高力ボルトは 検定対象外	×		
		5		○1. 無 □2. 有 [ ]	露出柱脚は 検定対象外	□		
IV	実建築物 の部材形 状等	1		○1. 実建築物のRC部材の断面形状は適用範囲内である □2. 実建築物のRC部材の断面形状は適用範囲外である		□		
		2		○1. 実建築物のS部材の断面形状は適用範囲内である □2. 実建築物のS部材の断面形状は適用範囲外である		□		
		3		○1. 実建築物のSRC部材の断面形状は適用範囲内である □2. 実建築物のSRC部材の断面形状は適用範囲外である		□		
		4		○1. 無 ○2. 有 □a. はりの耐力が貫通孔がない場合と同等以上 ◇b. はりの耐力が同等以上でない		□		
		5		○1. 無 □2. 有 検討方法 [ ]		□		
		6		○1. 鋼管柱 ○a. 通しダイヤフラム ○b. 内ダイヤフラム ○c. 外ダイヤフラム ○2. H形柱 ○a. 柱通し形式 ○b. はり通し形式		×		
		7		○1. 埋込み柱脚 ○2. 根巻き柱脚 ○3. 露出柱脚 ○4. 非埋込み型 (SRC造)		×		
		8		○1. 無 □2. 有 [ ]		□		

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
V	荷重・ 外力	1		○1. 令第84条による □2. 実況に応じた固定荷重を採用している □3. 追加荷重を考慮している [ ] □4. 割増し係数を考慮している [ ]		□			
		2		○1. 令第85条第1項による ○2. 柱軸力（長期荷重時）を低減している □3. 実況に応じた積載荷重を採用している □4. 追加荷重を考慮している [ ] □5. 割増し係数を考慮している [ ]		□			
	地震力	3		地域係数 $Z = ( 1.00 )$	$Z \geq$ 法令値	×		自動	
		4		地震力割増係数 ① $\alpha = 1.0$ □2. $\alpha = ( \quad )$ 理由 [ ]		□		自動	
		5		一次固有周期の算定方法 ① 告示式 $h = ( 6.600 )$ m, $\alpha = ( 1.00 )$ □2. その他 [ ]		□		自動	
		6		Ai分布係数 ① 告示式 □2. その他 [ ]		□		自動	
		7	×	地震時土圧の考慮 ○1. 考慮しない □2. 考慮している [ ]		□			
		8	×	地下階の地震力 (k) ○1. 令第88条第4項による □2. その他の数値 $k = ( \quad )$ 根拠 [ ] □3. その他の数値(部分地下) $k = ( \quad )$ 根拠 [ ]	$k \geq$ 法令値	□		自動	
		9		塔屋・屋上突出物の地震力 □1. 局部震度で検討 [ ] □2. Ai分布で検討 [ ] □3. 局部震度, Aiの大きい値で検討		□			
	風圧力	10		基準風速 $V_0 = ( 0.0 )$ m/s	$V_0 \geq$ 法令値	×		自動	
		11		地表面粗度区分 ① I ○2. II ○3. III ○4. IV		×		自動	
		12	×	風力係数 ○1. 法令値 □2. 直接入力 [ ]		□			
		13	×	高さ方向の分布係数(Er), ガスト影響係数(Gf) ○1. 法令値 □2. 直接入力 [ ]		□			
		14	×	風圧力の低減 ○1. 無 □2. 有 [ ]		□			
		15	×	風圧力の直接入力 ○1. 無 □2. 有 [ ]		□			
	積雪荷重	16	×	○1. 多雪区域でない 垂直積雪量 ( ) cm 単位荷重 □a. $20\text{N/m}^2/\text{cm}$ □b. ( ) $\text{N/m}^2/\text{cm} \geq 20$ ○2. 多雪区域である 垂直積雪量 ( ) cm 単位荷重 □a. $20\text{N/m}^2/\text{cm}$ □b. ( ) $\text{N/m}^2/\text{cm} \geq 20$		□		自動	
		17	×	積雪荷重の低減 ○1. 無 □2. 有 根拠 [ ]		□		自動	
		18	×	積雪荷重の直接入力 ○1. 無 □2. 有 根拠 [ ]		□		自動	
	その他の特殊荷重 追加荷重	19		○1. 無 ☒2. 有 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]		□		自動	

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
VI	一次設計 時の応力 計算 (共通)	1		応力解析 ①1. 立体解析 ○2. 疑似立体解析 ○3. 平面7-1解		×	自動		
		2		部材のせん断変形考慮 ①1. 有 □2. 無 対処方法 [ ]		□	自動		
		3		材端部の半剛接合条件 (露出柱脚を除く) ①1. 無 □2. 有 対処方法 [ ]		□	自動		
	解析一般	4		地震力の加力方向 ①1. X方向±・Y方向±の4ケース □2. 建物主軸方向±・主軸直角方向±(XY以外)の4ケース □3. その他 理由 [ ]		□	自動		
		5		風圧力 ○1. 風圧力による検定を行う □2. 風圧力が地震力より下回るため検定を行わない		□	自動		
	実骨組のモデル化 (形状)	6		全体剛床仮定 □1. 全体剛床とする 剛床仮定の根拠 [ ] □2. 剛床としない □a. 全体非剛床 [ ] □b. 吹き抜けのある非剛床 [ ] ◇c. 多剛床	多剛床は 適用外	□			
		7		吹き抜けの大きさ等 □吹き抜け部面積が階の床面積の1/8以上で、かつ平面上 偏在している 妥当性 [ ] □吹き抜け部面積が階の床面積の1/3を超える 妥当性 [ ] □吹き抜けによる長柱(2層以上又は細長比50以上)が生 ずる 妥当性 [ ]		□			
		8		吹抜けの位置 □互いに接する吹抜け □外壁線に接する吹抜け □耐力壁に接続する吹抜け □跳ね出しに接続する吹抜け		□			
	柱部材	9		軸変形の影響を考慮 ・長期荷重時 ①1. 有 □2. 無 [ ] ・短期荷重時 ①1. 有 □2. 無 [ ]		□	自動		
	変断面部材	10		変断面部材 ○1. 無 □2. 有 □a. 柱 □b. はり □c. その他の部材 [ ]		□			
		11		変断面のモデル化 □1. 最小断面位置の断面性能を用いる [ ] □2. 断面性能の平均値を用いる [ ] □3. その他 方法 [ ]		□			
	柱・はり部材の ねじれ	12		①1. ねじれを考慮しない □2. ねじれを考慮した応力解析を行い、ねじれ応力の検 定も行う ◇3. ねじれを考慮した応力解析を行うが、ねじれ応力の 検定は行わない		□	自動		
	非構造部材・非構 造部材壁の扱い	13		非構造部材から伝達される力の影響 □1. 考慮しない 妥当性 [ ] □2. 考慮する 妥当性 [ ]		□			
	計算上のダミー部材	14		計算上のダミー部材 ○1. 使用しない □2. 使用する [ ]		□			
		15		ダミー部材の機能 ○1. 曲げ・せん断・軸剛性はなく、端部の変位拘束もない ◇2. 上記以外の機能を持つ		×			

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
VI	一次設計 時の応力 計算 (共通)	基礎のモデル化	16	水平力の処理方法 □1. 根入れ抵抗 [ ] □2. 杭の水平抵抗 [ ] ◇3. その他		□			
			17	基礎の偏心 ○1. 無 □2. 有 対応 [ ]		□			
			18	基礎の回転・鉛直・水平ばね ④1. 無 □2. 有 ばね剛性の根拠 [ ]		□	自動		
		基礎の浮き上がり	19	④1. 考慮しない □2. 考慮する [ ]		□	自動		
		杭の曲げ戻し	20	□1. 考慮する 方法 [ ] □2. 考慮しない 理由 [ ]		□	自動		
		地盤反力	21	地盤の鉛直反力 □1. 考慮する 検討方法 [ ] □2. 考慮しない 理由 [ ]		□			
	一次設計 時の応力 計算 (RC造, SRC造の RC部)	部材の剛性	22	RC部材の剛性に対する鉄筋の考慮 ○1. 考慮する ④2. 考慮しない		×	自動		
			RC柱の剛性	23	× 曲げ剛性低下率 ○1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動	
		24		× せん断剛性低下率: ○1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動		
		RCばりの剛性	25	はりの曲げ剛性に対する床スラブの影響の考慮 □1. 考慮しない [ ] □2. RC規準による有効幅を考慮 [ ] ☑3. 剛性増大率により考慮 [ ] □4. その他 [ ]		□	自動		
			26	曲げ剛性低下率 ④1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動		
			27	せん断剛性低下率 ④1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動		
		耐力壁のモデル化	耐力壁	28	× 耐力壁 □1. 無 □2. 有 壁厚 ( ) cm	≥12cm	□	自動	
				29	× ○1. エメント(壁柱)置換 □2. フレース置換 保有水平耐力時との整合性 [ ]		□	自動	
			30	× 壁重量の伝達方式 ○1. はりの荷重項として柱に伝達 □2. 直接柱に伝達 [ ] □3. 壁が支持する [ ]		□	自動		
			31	× 軸剛性低下率 ○1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動		
			32	× 曲げ剛性低下率 ○1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動		
			33	× せん断剛性低下率 ○1. 無(1.0) □2. 有 根拠 [ ]		□	自動		
			34	× 開口付耐力壁 ○1. 無 ○2. 有 開口周比 ○a. 0.4以下である ◇b. 0.4を超える耐力壁がある		×	自動		
			35	× 縦長開口 ○1. 無 □2. 有 対処方法 [ ]		□			
			36	× 複数開口 ○1. 複数開口はない ○2. 複数開口がある ○a. 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準 同解説(2001) □b. 包絡した開口 [ ] □c. 等面積の開口 [ ]		□	自動		

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
VI	一次設計 時の応力 計算 (RC造, SRC造の RC部)	そで壁のモデル化	37	×	そで壁の有無 ○1. 無 □2. 有 扱い・評価方法 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			38	×	スリットの有無とタイプ ○1. 無 ○2. 完全スリット型 ○3. 部分スリット型		×		
			39	×	剛性の影響を柱で考慮 ○1. する ○a. 精算法 □b. 略算法(断面積・幅が等しい長方形断面とする) □c. その他 □2. しない 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>	自動	
		腰壁, 垂れ壁の モデル化	40	×	腰壁, 垂れ壁の有無 ○1. 無 □2. 有 扱い・評価方法 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			41	×	スリットの有無とタイプ ○1. 無 ○2. 完全スリット型 ○3. 部分スリット型		×		
			42	×	剛性の影響をはりで考慮 ○1. する ○a. 精算法 □b. 略算法(断面積・幅が等しい長方形断面とする) □c. その他 □2. しない 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>	自動	
	方立て壁のモデル化	43	×	方立て壁の有無 ○1. 無 □2. 有 扱い・評価方法 [ ]		<input type="checkbox"/>			
		44	×	スリットの有無とタイプ ○1. 無 ○2. 完全スリット型 ○3. 部分スリット型		×			
	柱はり接合部の モデル化	45	×	一般の柱はり接合部 ○1. 剛域にモデル化 ○2. ハネ部のせん断変形考慮 □3. 無視 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>	自動		
		46	×	壁に接する柱はり接合部 ○1. 剛域にモデル化 □2. 一般の柱はり接合部と同じ扱い 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>	自動		
	一次設計 時の応力 計算 (S造, SRC造の S部)	合成ばりの有無と モデル化	47		合成ばりの有無とモデル化 ○1. 無 □2. 有 □a. 完全合成ばり ○イ. プログラムに合成ばりとして扱う機能がある □ロ. プログラムに合成ばりとして扱う機能がない □b. 不完全合成ばり [ ]		<input type="checkbox"/>		
			48		合成ばりの扱い □1. スラブを考慮した剛性を用いる [ ] □2. スラブを考慮した剛性と鉄骨ばりのみの剛性の平均値 を用いる [ ] □3. その他 評価方法 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			49		スタッドボルト本数 ○1. プログラムで検討している □2. 別途検討している [ ]		<input type="checkbox"/>		
		はりに対する拘束 の仮定	50		上フランジの拘束 ○1. 小ばりによる拘束 ○2. 横補剛材による拘束 ○3. 部材全域拘束 □4. なし 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		
51				下フランジの拘束 ○1. 小ばりによる拘束 ○2. 横補剛材による拘束 ○3. 部材全域拘束 □4. なし 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>			

章	項目	細目番号	非該当項目	記入欄	数値等の制限	計算書対応頁	自動判定	備考
VI	一次設計時の応力計算 (S造, SRC造のS部)	ブレースのモデル化	52	鉛直ブレース ○1. 無 ○2. 有 ○a. 実ブレースと解析モデルとは同じ組み方 □b. 組み方をモデル化して解析している 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			53	水平ブレース ○1. 無 ○2. 有 ○a. ブレース部材の剛性を考慮して立体解析 □b. 剛床としてモデル化 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			54	○1. 軸変形・軸力のみ考慮 □2. その他の変形・応力も考慮 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			55	ヒール接合以外の材端条件 ○1. 無 □2. 有 根拠 [ ]		<input type="checkbox"/>		
			56	引張ブレース(圧縮力は負担しない)として扱うブレースの有無 ○1. 無 □2. 有 最も小さな細長比の値 ( )		<input type="checkbox"/>		
			57	圧縮ブレース(圧縮力も負担する)として扱うブレースの有無 ○1. 無 □2. 有 最も大きな細長比の値 ( )		<input type="checkbox"/>		
			58	□1. 隅部を考慮する 妥当性 [ ] ☑2. 隅部を考慮しない 理由 [ ]		<input type="checkbox"/>		自動
	59	回転ばねの考慮 ☑1. 無 妥当性 [ ] □2. 有 ばね評価の根拠 □a. 技術基準解説書 □b. その他 [ ]		<input type="checkbox"/>		自動		
	計算結果	逆せん断力の有無	60	○1. 無 □2. 有 対処法 [ ]		<input type="checkbox"/>		自動

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
VII	断面検定 (共通)	1		①1. 無 □2. 有 [ ]		□	自動		
		2		○1. 隅柱のみ行う ①2. 全柱に対して行う □3. 行わない 妥当性 [ ]		□			
		3		○1. 隅柱のみ行う ○2. 全柱に対して行う □3. 行わない 妥当性 [ ]		□			
	断面検定 (RC造)	柱	4	×	許容耐力に対するそで壁の考慮 ○1. プログラムで考慮している □2. プログラムで考慮していない 妥当性 [ ]		□	自動	
			5		許容耐力に対する腰壁, たれ壁の考慮 ○1. プログラムで考慮している ①2. プログラムで考慮していない 妥当性 [ ]		□	自動	
		はり	6		2段を超える多段配筋 ○1. 無 ◇2. 有		×		
			7		許容曲げモーメントMy算定時のスラブ筋の考慮 ①1. 無 □2. 有 [ ]		□	自動	
			8		はりのひび割れの検討 ○1. プログラムで検定している □2. 別途検討している 検討 [ ] □3. 検定しない 理由 [ ]		□		
			9	×	○1. 縦筋と横筋との比が2以下 □2. 縦筋と横筋との比が2を超える		×		
		耐力壁	10	×	設計用せん断力(nQd)の割増し係数n ○1. n = 2.0 ○2. n ≥ 2.0 □その他 [ ]		×	自動	
			11	×	許容せん断力 ○1. $QA1 = r \cdot t \cdot l \cdot fs$ ○2. $QA2 = r \cdot (Qw + \sum Qc)$ ○3. Max ( QA1, QA2 )		×	自動	
			12	×	耐力壁の層せん断力負担率が50%を超える場合の せん断力の割増し ○1. 50%を超えない ○2. 50%を超える階があり, せん断力を割増している ○a. プログラムで考慮している □b. 別途検討している 検討 [ ]		□	自動	
			13	×	柱はり接合部の検定 ○1. プログラムで検定している □2. 別途検討している 検討 [ ] □3. 検定しない		□	自動	
	断面検定 (S造)	柱の座屈長	14		①1. 塑性設計指針 □2. 階高 h の1.2倍(S規準) 妥当性 [ ] □3. その他 ( ) h 根拠 [ ]		□	自動	
			15		○1. 告示1791号(SN材は技術基準付録1-2.4)を満たす □2. 上記の告示等を満たさない部材がある 妥当性 [ ]		□		
		筋かいによる はり軸力の影響	16	×	○1. プログラムで考慮している □2. 別途考慮する 検討 [ ] □3. 考慮しない 理由 [ ]		□		
			17	×	取り付け部材との芯ずれ ○1. 無 □2. 有 検討 [ ]		□		
		CFT柱	18	×	○1. 相互拘束効果を考慮しない □2. S造として計算 [ ] □3. 相互拘束効果を考慮する [ ]	CFT造は 適用外	□	自動	

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
VII	断面検定 (S造) はり端部・継手部の 検定	19		○1.プログラムで検定機能で検定している □a. 存在応力度設計 □b. 全強設計 ☑2. 別途検討する [ ]		□	自動	
		20		はり端部における部材断面係数に断面欠損を考慮 ①1.プログラムで考慮している □a. 影響を精算 [ ] ☑b. 影響を欠損率で評価 [ 1.00 ] □2.プログラムで考慮していない 対処方法 [ ]		□	自動	
		21		継手部における部材断面係数に断面欠損を考慮 ①1.プログラムで考慮している ☑a. 影響を精算 [ ] □b. 影響を欠損率で評価 [ ] □2.プログラムで考慮していない 対処方法 [ ]		□	自動	
		22		はり端部における部材断面係数に鉄骨ウェブを考慮 ①1.プログラムで考慮している □2.プログラムで考慮していない 対処方法 [ ]		□	自動	
		23		継手部における部材断面係数に鉄骨ウェブを考慮 ①1.プログラムで考慮している □2.プログラムで考慮していない 対処方法 [ ]		□	自動	
	柱はり接合部 <sup>h</sup> の 検定	24		○1.プログラムで検定している ☑2. 別途検討する [ ]		□	自動	
	はり端部・継手部の 保有耐力接合の 検定	25		①1.プログラムで検定している □2. 別途検討する [ ]	継手部は 検定対象外	□		
	保有耐力横補剛 の検定	26		①1.プログラムで検定している ①a. 均等配置 [ ] ①b. 主として塑性化領域に配置 [ ] □2. 別途検討する [ ]		□		
		27		横補剛材の強度・剛性の検討 ○1.プログラムで対応している ☑2. 別途検討する [ ]		□		
	露出柱脚(ル-1-2, ル-2の場合)	28		○1. 構造関係技術基準解説書の付図1.2-25の設計フロー ○a. ③のフローで検討 [ ] ○b. ④のフローで検討 [ ] ○c. ⑤のフローで検討 [ ] □2. 別途検討する [ ]	露出柱脚は 検定対象外	□	自動	
	根巻き形式	29		根巻き高さ ○1. 柱幅の2.5倍以上 □2. 柱幅の2.5倍未満 別途検討 [ ]		□		
	埋め込み形式	30		埋め込み深さ ○1. 柱幅の2.0倍以上 □2. 柱幅の2.0倍未満 別途検討 [ ]		□		
	冷間成形角形鋼管 使用時の応力割増 しと柱はり耐力比	31		応力割り増し ①1.プログラムの機能により応力を割り増して検定 □2. 別途検討する [ ]		□	自動	
		32		柱はり耐力比 ①1.プログラムで検定している □2. 別途検討する [ ]		□	自動	
		33		ダイヤフラムの種類 ○1. 内ダイヤフラム ○2. 外ダイヤフラム・通しダイヤフラム		×		
		34		ブレースの有無 ○1. 無 □2. 有 面外変形, 偏心に対する妥当性 [ ]		□		

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
VII	断面検定 (SRC造)	35	×	2段を超える多段配筋 ○1. 無 ◇2. 有		×		
		36	×	S部分とRC部分の設計用曲げモーメント分担率 ○1. S造部分で負担し, S造部分で負担できない場合はRC造部分で負担することを原則とする □2. 許容曲げモーメントの比率で分担		□	自動	
		37	×	断面検定方法 ○1. 単純累加強度式 □2. 一般化累加強度式		□	自動	
		38	×	RC造部分の設計用せん断力 ○1. $rQD = rQL + \alpha \sum rMy/l$ ○2. $rQD = n \cdot \{ sQd \cdot (Q0 + QE) \}$ ○3. 1. と2. のどちらか小さい方の値 □4. $rQD1 = rMD/M \cdot Q0 + \alpha \sum rMy/l$ □5. $rQD2 = rMD/M \cdot (Q0 + n \cdot QE)$ □6. 4. と5. のどちらか小さい方の値 □7. $rMD/M \cdot (Q0 + QE)$		□	自動	
		39	×	S造部分の設計用せん断力 ○1. ルートにより決定 □2. $sQD = sMD/M \cdot QL + \alpha \sum sMy/l$ □3. $sQD = sMD/M \cdot (Q0 + QE)$		□	自動	
		40	×	継手部の短期設計曲げモーメント・設計せん断力(SRC規準) □はりの短期許容曲げ耐力を考慮しない式 □はりの短期許容曲げ耐力を考慮した式		□	自動	
	柱	41	×	断面検定方法 ○1. 単純累加強度式 □2. 一般化累加強度式 □3. 単純累加強度式(軸力はS部分が負担)		□	自動	
		42	×	RC造部分の設計用せん断力 ○1. ルートにより決定 □2. $rQD = rMD/M \cdot QL + \alpha c \sum rMy/h$ □3. $rQD = n \cdot (Q0 + QE) \cdot SQD$ □4. 1. と2. のどちらか小さい方の値 □5. $rQD = rMD/M \cdot Q0 + \alpha c \cdot \{ (柱頭 \sum rMUG + 柱脚 \sum rMUG) / h \}$ □6. $rQD = rMD/M \cdot Q0 + \alpha c \sum rMy/h$ □7. $rQD = rMD/M \cdot (Q0 + nQE)$ □8. 5. と6. のどちらか小さい方の値 □9. $rQD = rMD/M \cdot (Q0 + QE)$		□	自動	
		43	×	S造部分の設計用せん断力 ○1. ルートにより決定 □2. $sQD = sMD/M \cdot QL + \alpha \sum sMy/l$ □3. $sQD = sMD/M \cdot (Q0 + QE)$		□	自動	
	耐力壁	44	×	せん断耐力 ○1. SRC規準による $w\tau A$ を考慮した式 □2. SRC規準による $w\tau A$ を無視した式		□	自動	
		45	×	耐力壁の層せん断力負担率が50%を超える場合のせん断力の割増し ○1. 50%を超えない ○2. 50%を超える階があり, せん断力を割増している ○a. プログラムで考慮している □b. 別途検討している 検討 [ ]		□	自動	
	柱はり接合部	46	×	柱はり接合部の検定 ○1. プログラムの検定機能で検定している □2. 別途検討している 検討 [ ] □3. 検定しない 理由 [ ]		□		
	SRC造ばりの S造継手部	47	×	S造継手部のボルト孔や断面欠損の考慮 □1. 無 [ ] □2. 有 □a. 引張側のみ [ ] □b. 圧縮, 引張両側 [ ]		□	自動	

章	項目		細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
Ⅷ	層間 変形角・ 偏心率・ 剛性率	層間変形角	1	×	○1. 1/200以下 □2. 1/200を超える階もあるが制限値の緩和を満たしている 制限値の緩和の妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		
		偏心率	2	×	□1. 非構造部材の剛性を考慮する 妥当性 [ ] □2. 非構造部材の剛性を考慮しない 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		
		剛性率	3	×	□1. 非構造部材の剛性を考慮する 妥当性 [ ] □2. 非構造部材の剛性を考慮しない 妥当性 [ ]		<input type="checkbox"/>		

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考	
IX	保有 水平耐力 (共通)	1	×	○1. 一次設計と同じ角度で加力 □2. 一次設計と異なる角度で加力 理由・根拠 [ ]		□	自動		
		2	×	剛域の大きさ ○1. 一次設計と同じ □2. 一次設計と異なる 理由・根拠 [ ]		□	自動		
		3	×	○1. 一次設計のモデル化と同じ □2. 一次設計のモデル化と異なる 理由・根拠 [ ]		□	自動		
		4	×	○1. 座屈耐力時以降の耐力は考えない（座屈耐力時に解析を中止） □2. 座屈後耐力が低下し安定した時の耐力を復元力の耐力とし、保持されるとする [ ] □3. 座屈後、座屈耐力が保持されるものとする		□			
		5	×	柱 ○1. M-N [ ] ○2. Mx-My-N [ ] □3. 軸力固定 妥当性 [ ]		□	自動		
				×	RC耐力壁 ○1. M-N [ ] □2. 軸力固定 妥当性 [ ]		□	自動	
		6	×	○1. 一次設計のモデル化と同じ □2. 一次設計のモデル化と異なるものがある 理由・根拠 [ ]		□	自動		
		7	×	○1. 一次設計のモデル化と同じ □2. 一次設計のモデル化と異なるものがある 理由・根拠 [ ]		□			
		8	×	□1. 一次設計のモデル化と同じ 理由・根拠 [ ] □2. 一次設計のモデル化と異なるものがある 理由・根拠 [ ]		□	自動		
		9	×	Ds評価のための増分解析（X方向） ・打ち切り条件 ○1. $\delta$ に達したとき ○2. 指定層間変形角以上に達したとき ○a. 1/75以上（耐力壁付きRC造） ○b. 1/50以上（S造、純ラーメンRC造） □c. その他（ ）理由 [ ] □3. その他		□	自動		
				×	未崩壊層のDs判定（X方向） ○1. 部分崩壊 $\delta$ の応力分布と部材耐力から判定 □2. 崩壊層の耐力を大きく仮定して判定		×		
				×	崩壊形の確認（X方向） ○1. 全体崩壊 □2. 層崩壊 妥当性 [ ] □3. 局部崩壊 妥当性 [ ]		□		
				10	×	Ds評価のための増分解析（Y方向） ・打ち切り条件 ○1. $\delta$ に達したとき ○2. 指定層間変形角以上に達したとき ○a. 1/75以上（耐力壁付きRC造） ○b. 1/50以上（S造、純ラーメンRC造） □c. その他（ ）理由 [ ] □3. その他		□	自動
×	未崩壊層のDs判定（Y方向） ○1. 部分崩壊 $\delta$ の応力分布と部材耐力から判定 □2. 崩壊層の耐力を大きく仮定して判定						×		
×	崩壊形の確認（Y方向） ○1. 全体崩壊 □2. 層崩壊 妥当性 [ ] □3. 局部崩壊 妥当性 [ ]						□		

章	項目		細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
IX	保有 水平耐力 (共通)	必要保有水平耐力	11	×	階としてのFD,あるいは柱・はりのFD部材の有無 ○1.無 ◇2.有		×	自動	
			12	×	保有水平耐力計算時の外力分布 ○1. Ai分布 □2. 必要保有水平耐力の分布 [ ] □3. 直接入力による分布 根拠 [ ]		□	自動	
			13	×	脆性部材(せん断破壊,座屈等による急激な耐力低下の恐れがある部材) ○1.無 □2.有 [ ]		□		
			14	×	脆性部材がある場合の保有水平耐力の評価方法 ○1. 脆性部材が脆性破壊した時点の耐力を保有水平耐力とする □2. その他		×		
			15	×	柱はり接合部破壊の有無(RC造) ○1.無 □2.有		×		
				×	鉄筋定着破壊の有無(RC造) ○1.無 □2.有 [ ]		□		
			16	×	構造特性係数 ○1. 法令値 □2. 直接入力 根拠 [ ]		□	自動	
		保有水平耐力	17	×	保有水平耐力評価のための増分解析(X方向) 判定条件 ○1. 終局耐力を超えたとき ○2. 指定層間変形角以下 ○a. 1/75以上(耐力壁付きRC造) ○b. 1/50以上(S造,純ラーメンRC造) □c. その他( )理由 [ ] □3. その他		□	自動	
				×	保有水平耐力評価のための増分解析(Y方向) 判定条件 ○1. 終局耐力を超えたとき ○2. 指定層間変形角以下 ○a. 1/75以上(耐力壁付きRC造) ○b. 1/50以上(S造,純ラーメンRC造) □c. その他( )理由 [ ] □3. その他		□	自動	
		基礎の浮上りの確認	18	×	浮き上がり ○1.無 □2.有 妥当性 [ ]		□	自動	



章	項目		細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
IX	保有 水平耐力 (SRC造)	柱	29	×	終局曲げ耐力（準拠した式） ○1. 構造関係技術基準解説書の式		×	自動	
			30	×	終局せん断耐力（準拠した式） ○1. 構造関係技術基準解説書の式 □2. SRC規準 □3. SRC規準（RC造部分の曲げ降伏は考慮しない）		□	自動	
			31	×	そで壁の耐力考慮 □1. 無 [ ] □2. 有 □a. 両そで壁のみ [ ] □b. 片そで壁もあり [ ]		□	自動	
	はり		32	×	終局曲げ耐力に対するスラブ筋の考慮 □1. 考慮しない [ ] □2. 考慮する 方法 [ ]		□	自動	
			33	×	終局曲げ耐力（準拠した式） ○1. 構造関係技術基準解説書の式		×	自動	
			34	×	終局せん断耐力（準拠した式） ○1. 構造関係技術基準解説書の式 □2. SRC規準 □3. SRC規準（RC部分の曲げ降伏は考慮しない）		□	自動	
			35	×	腰壁や垂れ壁の考慮 ○1. 無 ○2. 有		×	自動	
	耐力壁		36	×	終局曲げ耐力（準拠した式） ○1. 構造関係技術基準解説書の式 □2. SRC規準 □3. その他の方法 [ ]		□	自動	
			37	×	終局せん断耐力（準拠した式） ○1. 構造関係技術基準解説書の式 □2. SRC規準 □3. RC造壁の方法にならう		□	自動	
	柱脚		38	×	終局曲げ耐力 ○1. SRC柱として計算 □2. RC柱として計算		□	自動	
	S造部分の柱・はり		39	×	H形断面はりの終局曲げ耐力 ○1. ウェブを考慮する □2. ウェブを考慮しない		□	自動	
			40	×	H形、十字形、T形断面柱の終局曲げ耐力 ○1. ウェブを考慮する □2. ウェブを考慮しない		□	自動	

章	項目	細目 番号	非該当 項目	記入欄	数値等の 制限	計算書 対応頁	自動 判定	備考
X	大臣認定プログラムでは検定していない建築物の部分の設計	1		<input type="radio"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>塔屋</li> <li><input type="checkbox"/>階段</li> <li><input type="checkbox"/>バルコニー</li> <li><input type="checkbox"/>屋上又は外壁からの突出部</li> <li><input type="checkbox"/>床スラブ</li> <li><input type="checkbox"/>小ばり</li> <li><input type="checkbox"/>地下外壁</li> <li><input type="checkbox"/>基礎フーチング</li> <li><input type="checkbox"/>杭</li> <li><input type="checkbox"/>片持ばり</li> <li><input type="checkbox"/>柱脚</li> <li><input type="checkbox"/>S造継ぎ手・仕口</li> <li><input type="checkbox"/>二次部材</li> <li><input type="checkbox"/>屋根ふき材</li> <li><input type="checkbox"/>外装材</li> <li><input type="checkbox"/>屋外に面する帳壁</li> <li><input type="checkbox"/>その他 [ ]</li> </ul>		<input type="checkbox"/>		
	塔屋, 階段の設計	2		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	バルコニー, 片持ばりの設計	3		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	屋上または外壁の突出部の設計	4		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	床スラブ, 小ばりの設計	5		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	地下外壁, 基礎フーチングの設計	6		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	杭の設計	7		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	S造接合部, S造柱脚の設計	8		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	非構造部材 (屋根ふき材, 外装材, 帳壁) の設計	9		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		
	その他	10		プログラムの使用 <input type="checkbox"/> 1. 無 <input type="checkbox"/> 2. 有 [ ]		<input type="checkbox"/>		

### 3.2 メッセージ一覧

#### 3.2.1 適用範囲外メッセージの一覧

なし

#### 3.2.2 警告メッセージの一覧

なし

#### 3.2.2 注意メッセージの一覧

なし

### 3.3 特別な調査又は研究の結果による場合

---

---

---

---

---

## 4 荷重・外力

### 4.1 固定荷重

#### 床の仮定荷重

屋根				
合計				0.00 kN/m <sup>2</sup>
ピット				
スラブ	24 x 0.25	=	6.00	
合計				6.00 kN/m <sup>2</sup>

#### 部材自重の計算のための基本データ

標準スラブ厚：梁自重の計算時に梁せいから控除する値

階	RC・SRC部材の 単位体積重量(kN/m <sup>3</sup> )				RC・SRC部材の仕 上げ重量(N/m <sup>2</sup> )		鉄骨部材の仕 上げ重量(N/m <sup>2</sup> )		鉄骨大梁の 重量割増率	標準スラブ厚(mm)
	柱	壁	大梁	小梁	柱	梁	柱	梁		
1F	24.0	24.0	24.0	24.0						0
2F	24.0	24.0	24.0	24.0						0
RF	24.0	24.0	24.0	24.0						0

## 4.2 積載荷重

床荷重表 単位:kN/m<sup>2</sup>

室名		床 用	小梁用	大梁用	地震用	伝達	スラブ符号	積雪	標準床の指定
屋根	DL	0.00	0.00	0.00	0.00	X	S1	無	
	LL	0.10	0.10	0.10	0.10				
	TL	0.10	0.10	0.10	0.10				
ピット	DL	6.00	6.00	6.00	6.00	XY	FS	無	
	LL	20.00	20.00	20.00	20.00				
	TL	26.00	26.00	26.00	26.00				

## 4.3 常時荷重時の条件

G + P を常時荷重とする（ G : 固定荷重, P : 積載荷重 ）

#### 4.4 積雪荷重

##### 4.4.1 積雪荷重に関する係数など

積雪荷重は考慮しない

## 4.5 風圧力

### 4.5.1 風荷重に関する係数など

風速 $V_0$ (m/s) : 0, 地表面粗度区分 : I

Zb(m) : 5, ZG(m) : 250,  $\alpha$  : 0.10, H(m) : 6.60

Er : 1.18, Gf : 2.00, E : 2.79

Cf = Cpe1 - Cpe2 - Cpi ( Cpe1 = 0.8kz, Cpe2 = -0.40, Cpi = 0.00 )

### 4.5.2 風荷重時受風面積

X方向

	高さ (m)	速度圧 (N/m <sup>2</sup> )	受風面積 (m <sup>2</sup> )	kz	Cf	Pi (kN)	$\Sigma$ Pi ( $\Sigma$ Pi/地震力)
2F階柱用	6.6	0	3.0	1.00	1.20	0	0( 0.00)
1F階柱用	3.3	0	5.9	0.95	1.16	0	0( 0.00)

Y方向

	高さ (m)	速度圧 (N/m <sup>2</sup> )	受風面積 (m <sup>2</sup> )	kz	Cf	Pi (kN)	$\Sigma$ Pi ( $\Sigma$ Pi/地震力)
2F階柱用	6.6	0	3.8	1.00	1.20	0	0( 0.00)
1F階柱用	3.3	0	7.6	0.95	1.16	0	0( 0.00)

## 4.6 地震力

### 4.6.1 地震力に関する係数など

Ai分布の計算：政令による

地域係数：1.00

地盤種別：2種

固有周期の計算：政令の略算値による

標準層せん断力係数 C0：0.300(X), 0.300(Y)

### 4.6.2 建築物重量と地震力

建物の高さ(m)：6.60, 建物の固有周期(sec)：(X)0.198, (Y)0.198

振動特性係数：(X)1.000, (Y)1.000

Wi：建物重量(kN). Ci：層せん断力係数. Qi：設計地震力(kN).

Wi/A：単位床面積あたりの建物重量(kN/m<sup>2</sup>)

	Wi	ΣWi	αi	Ai(X)	Ai(Y)	震度	Ci(X)	Ci(Y)	Qi(X)	Qi(Y)	Wi/A
2F階柱用	29	29	0.837	1.064	1.064	-	0.319	0.319	9	9	7.12
1F階柱用	6	35	1.000	1.000	1.000	-	0.300	0.300	11	11	
基礎用	198	233									47.80

層せん断力の割増し・追加地震力・追加建物重量：なし

**建築物重量の内訳**

## \* 2F階柱用

床(屋根)	0
柱(下)	2
大梁	2
小梁	1
追加荷重	24
合計	29 kN

## \* 1F階柱用

柱(上)	2
柱(下)	2
大梁	2
合計	6 kN

## \* 基礎用

床(ピット)	108
柱(上)	2
大梁	89
合計	198 kN

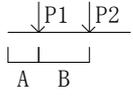
**4.7 追加荷重ケース**

該当するデータが存在しない

#### 4.8 その他の荷重

##### 追加部材荷重リスト

\* RF階 <1> EV籠  
集中荷重：2x3 (kN)



A (m)	0.77
B (m)	0.75
P1 (kN)	3.00
P2 (kN)	3.00

### 追加部材荷重

柱の場合 < 追加荷重リスト番号・追加荷重の作用方向 (→↑←↓) : 追加荷重に関するコメント >

大梁の場合 < 追加荷重リスト番号 : 追加荷重に関するコメント >

小梁の場合 < 追加荷重リスト番号 : 追加荷重に関するコメント > ( 壁の重量 kN/m<sup>2</sup> : 始端の距離-長さ )

片持ち床の場合 ( 片持ち床先端の荷重 kN/m )

RF階

**X1**   **X2**

**Y2**   <1:EV籠>  

--	--

  
**Y1**   <1:EV籠>

## 5 準備計算

### 5.1 剛性に関する計算条件

#### 5.1.1 剛性に関する計算条件

RC・SRC部材の剛域：考慮する（鉄骨部材の剛域は考慮しない）

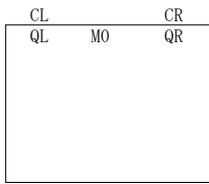
コシ・タレ・ソデ壁によるRC・SRC部材の曲げ剛性増大率：略算（同じせいの断面に置換）

スラブによるRC・SRC大梁の曲げ剛性増大率：略算（片側1.5・両側2.0）

スラブによる鉄骨大梁の曲げ剛性増大率：考慮しない

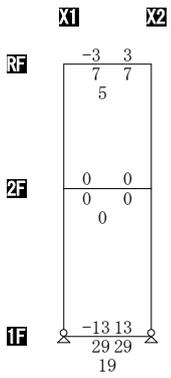
## 5.2 柱・梁の基本応力

### 5.2.1 大梁のCMQ図

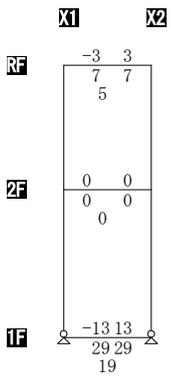


CL : 梁左端のC (kN・m). CR : 梁右端のC (kN・m)  
 QL : 梁左端のQ0 (kN). QR : 梁右端のQ0 (kN)  
 MO : 梁中央のM0 (kN・m)

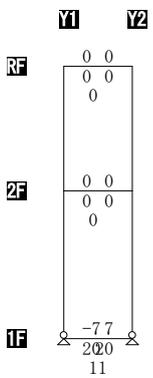
#### Y1通り



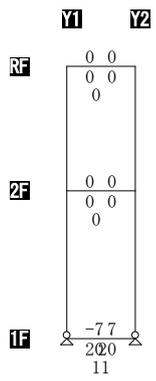
#### Y2通り



#### X1通り



X2通り



### 5.2.2 柱のCMQ図

該当するデータが存在しない

### 5.3 節点重量

#### 5.3.1 常時の節点重量

節点位置で集計した常時荷重の値。( )内は上階からの累計値. 単位 kN

1F階

**X1**    **X2**

<b>Y2</b>	●	●
	49	49
	(58)	(58)
<b>Y1</b>	●	●
	49	49
	(58)	(58)

2F階

**X1**    **X2**

<b>Y2</b>	●	●
	1	1
	(9)	(9)
<b>Y1</b>	●	●
	1	1
	(9)	(9)

RF階

**X1**    **X2**

<b>Y2</b>	●	●
	7	7
	(7)	(7)
<b>Y1</b>	●	●
	7	7
	(7)	(7)

#### 5.3.2 積雪荷重時の節点重量

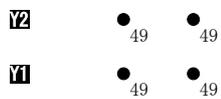
該当するデータが存在しない

### 5.3.3 地震荷重時の節点重量

節点位置で集計した固定荷重と地震時積載荷重の和の値. 単位 kN

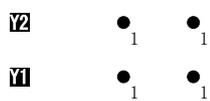
1F階

X1 X2



2F階

X1 X2



RF階

X1 X2



## 6 応力解析

### 6.1 架構モデル

#### 6.1.1 建築物の規模・各階の構造種別

階数：2, X方向スパン数：1, Y方向スパン数：1

階名称	構造種別	階の種別	構造階高算出用の標準梁せい(mm)
RF	-	-	250
2F	S造	一般階	250
1F	S造	一般階	1500

#### 6.1.2 モデル化共通条件

応力解析の方法：三次元モデルにもとづく変位法

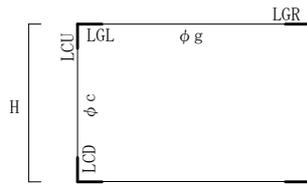
柱の変形要素：各主軸に関する曲げ・せん断および軸変形

大梁の変形要素：強軸に関する曲げ・せん断変形

長期応力解析時の剛床解除：行わない

立面的に傾斜した梁の軸方向成分の考慮：行う

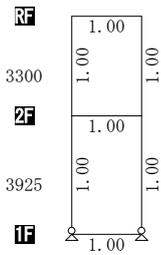
### 6.1.3 構造モデル図



H : 構造階高(mm)  
 LGL : 梁左端の剛域長(mm). LGR : 梁右端の剛域長(mm)  
 phi\_g : 梁の曲げ剛性増大率  
 LCD : 柱下端の剛域長(mm). LCU : 柱上端の剛域長(mm)  
 phi\_c : 柱の曲げ剛性増大率

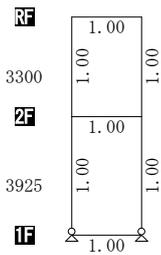
#### Y1通り

X12300 X2



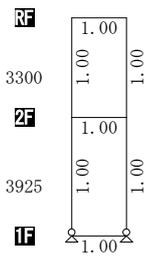
#### Y2通り

X12300 X2



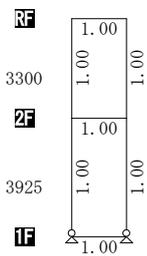
#### X1通り

Y1800 Y2



#### X2通り

Y1800 Y2



#### 6.1.4 支点条件

支点バネのデータは存在しない

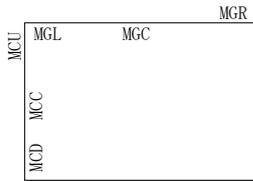
#### 6.1.5 部材接合個別入力条件

部材端の回転バネのデータは存在しない

## 6.2 鉛直荷重時

### 6.2.1 常時荷重時応力図

#### 常時荷重時の曲げモーメント



MGL : 梁左端の曲げ(kN・m). MGR : 梁右端の曲げ(kN・m)

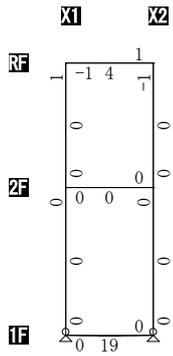
MGC : 梁中央の曲げ(kN・m)

MCD : 柱下端の曲げ(kN・m). MCU : 柱上端の曲げ(kN・m)

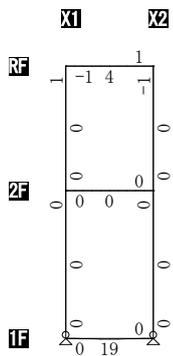
MCC : 柱中央の曲げ(kN・m)

※ 多雪区域の場合は G+P+0.7S の値をあらわす

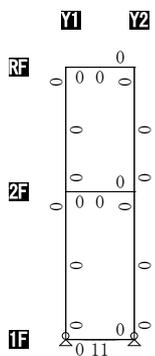
#### Y1通り



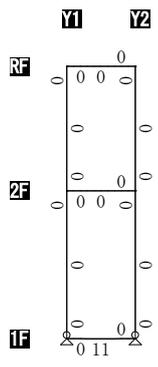
#### Y2通り



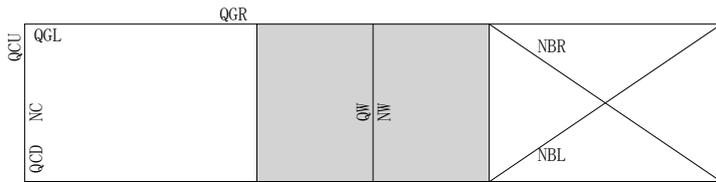
#### X1通り



X2通り

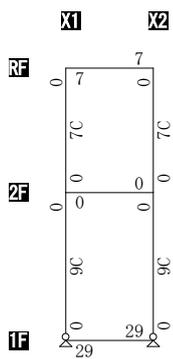


常時荷重時の軸力・せん断力

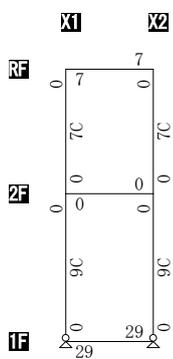


QGL : 梁左端のせん断力 (kN). QGR : 梁右端のせん断力 (kN)  
 QCD : 柱下端のせん断力 (kN). QCU : 柱上端のせん断力 (kN). NC : 柱の軸力 (kN)  
 QW : 耐震壁のせん断力 (kN). NW : 耐震壁の軸力 (kN)  
 NBL : 左上がりブレースの軸力 (kN). NBR : 右上がりブレースの軸力 (kN)  
 ※ 軸力が圧縮の場合は C、引張りの場合は T を数値末尾に表示  
 ※ 多雪区域の場合は G+P+0.7S の値をあらわす

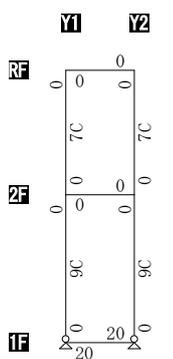
Y1通り



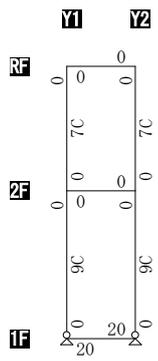
Y2通り



X1通り



X2通り



### 6.2.2 積雪荷重時応力図

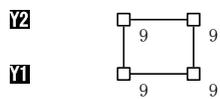
該当するデータが存在しない

### 6.2.3 常時荷重時軸力図

常時荷重時の柱軸力. ( )内は周辺の壁柱・ブレースによる値. 単位 kN

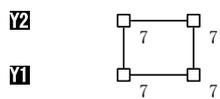
1F階

X1 X2



2F階

X1 X2



#### 6.2.4 積雪荷重時軸力図

該当するデータが存在しない

### 6.3 水平荷重時

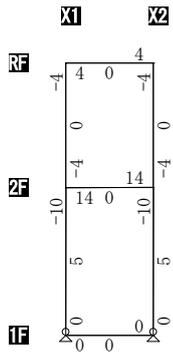
#### 6.3.1 地震荷重時応力図

##### X方向地震荷重時の曲げモーメント

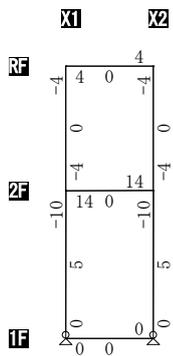


MGL : 梁左端の曲げ(kN・m). MGR : 梁右端の曲げ(kN・m)  
 MGC : 梁中央の曲げ(kN・m)  
 MCD : 柱下端の曲げ(kN・m). MCU : 柱上端の曲げ(kN・m)  
 MCC : 柱中央の曲げ(kN・m)  
 ※ 正方向加力時の値をあらわす

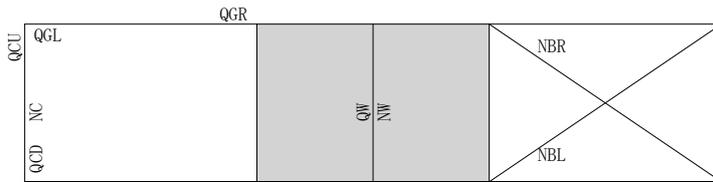
#### Y1通り



#### Y2通り

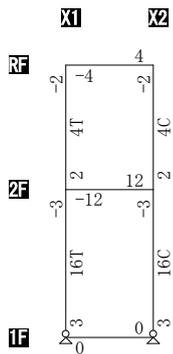


X方向地震荷重時の軸力・せん断力

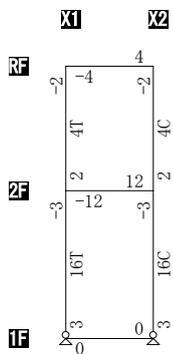


QGL : 梁左端のせん断力 (kN). QGR : 梁右端のせん断力 (kN)  
 QCD : 柱下端のせん断力 (kN). QCU : 柱上端のせん断力 (kN). NC : 柱の軸力 (kN)  
 QW : 耐震壁のせん断力 (kN). NW : 耐震壁の軸力 (kN)  
 NBL : 左上がりブレースの軸力 (kN). NBR : 右上がりブレースの軸力 (kN)  
 ※ 軸力が圧縮の場合は C、引張りの場合は T を数値末尾に表示  
 ※ 正方向加力時の値をあらわす

Y1通り



Y2通り

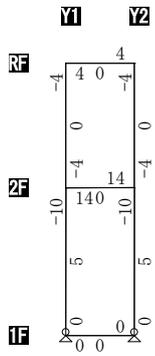


Y方向地震荷重時の曲げモーメント

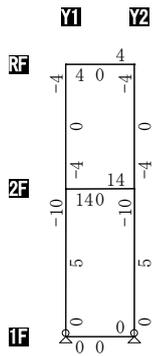


MGL : 梁左端の曲げ(kN・m). MGR : 梁右端の曲げ(kN・m)  
 MGC : 梁中央の曲げ(kN・m)  
 MCD : 柱下端の曲げ(kN・m). MCU : 柱上端の曲げ(kN・m)  
 MCC : 柱中央の曲げ(kN・m)  
 ※ 正方向加力時の値をあらわす

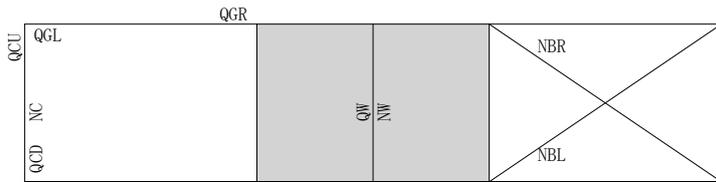
X1通り



X2通り

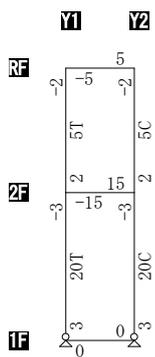


Y方向地震荷重時の軸力・せん断力

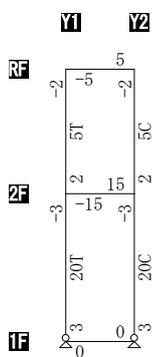


QGL : 梁左端のせん断力 (kN). QGR : 梁右端のせん断力 (kN)  
 QCD : 柱下端のせん断力 (kN). QCU : 柱上端のせん断力 (kN). NC : 柱の軸力 (kN)  
 QW : 耐震壁のせん断力 (kN). NW : 耐震壁の軸力 (kN)  
 NBL : 左上がりブレースの軸力 (kN). NBR : 右上がりブレースの軸力 (kN)  
 ※ 軸力が圧縮の場合は C、引張りの場合は T を数値末尾に表示  
 ※ 正方向加力時の値をあらわす

X1通り



X2通り



6.3.2 風荷重時応力図

該当するデータが存在しない

6.3.3 追加荷重ケース時応力図

該当するデータが存在しない

## 6.3.4 分担率

## 地震荷重時のせん断力分担率の集計表

単位：kN. ( )内は分担率：%

階	X方向		Y方向	
	柱	壁・ブレース	柱	壁・ブレース
2F	9 (100)	0 ( 0)	9 (100)	0 ( 0)
1F	11 (100)	0 ( 0)	11 (100)	0 ( 0)

### 地震荷重時の負担せん断力

柱・耐震壁・ブレースの地震荷重時の負担せん断力, 単位 kN

#### 1F階

**X1**    **X2**

<b>V2</b>	$\square_3^{\infty}$	$\square_3^{\infty}$
<b>V1</b>	$\square_3^{\infty}$	$\square_3^{\infty}$

#### 2F階

**X1**    **X2**

<b>V2</b>	$\square_2^2$	$\square_2^2$
<b>V1</b>	$\square_2^2$	$\square_2^2$

### 6.4 支点反力图

1行目 : 常時の支点反力, 2行目 : X方向地震時の支点反力, 3行目 : Y方向地震時の支点反力. 単位 : kN  
 積雪荷重時の支点反力がある場合は常時の値の後の( )内に示す

1F階

**X1**    **X2**

**Y2**

●	58	●	58
	-16		16

**Y1**

●	20	●	20
	58		58
	-16		16
	-20		-20

## 7 断面検定

### 7.1 断面検定方針

設計曲げモーメントまたは設計せん断力を，指定された断面から得られる許容曲げモーメントまたは許容せん断力で除し，その値(検定比)が1.0未満になることを確認する。

### 7.2 検定用応力組合せ一覧表

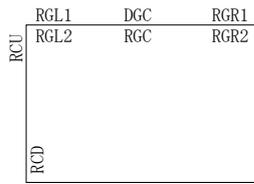
長期荷重時の応力の組合せ：G + P

短期荷重時の応力の組合せ：G + P + K および G + P + S

( G：固定荷重，P：積載荷重，K：地震荷重，S：積雪荷重 )

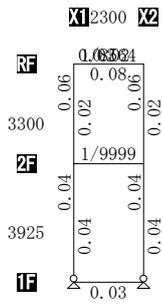
### 7.3 長期荷重時断面検定比図

#### 長期荷重時の曲げに関する検定比とたわみ量

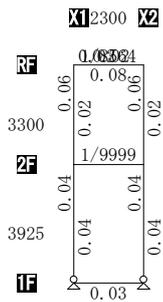


RGL1 : 梁左端の曲げ検定比. RGL2 : 梁左継手の曲げ検定比 (S・SRC)  
 RGR1 : 梁右端の曲げ検定比. RGR2 : 梁右継手の曲げ検定比 (S・SRC)  
 RGC : 梁中央の曲げ検定比. DGC : 最大たわみ量/スパン長  
 RCD : 柱下端の曲げ検定比. RCU : 柱上端の曲げ検定比  
 ※ 検定比が1を超える場合, たわみ量が1/250を超える場合は末尾に \* を表示

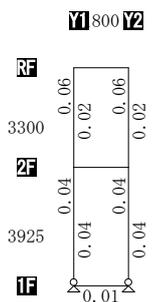
#### Y1通り



#### Y2通り

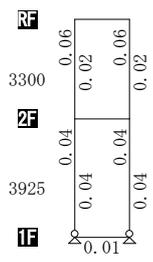


#### X1通り



### X2通り

Y1 800 Y2

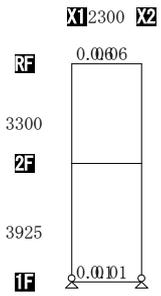


長期荷重時のせん断に関する検定比

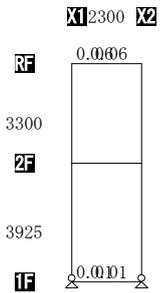


RGL1 : 梁左端のせん断に関する検定比. RGL2 : 梁左継手のせん断に関する検定比 (S・SRC)  
 RGC : 梁中央のせん断に関する検定比  
 RCD : 柱下端のせん断に関する検定比. RCU : 柱上端のせん断に関する検定比  
 RW : 耐震壁のせん断に関する検定比  
 RBT : ブレースの引張軸力に関する検定比. RBC : ブレースの圧縮軸力に関する検定比

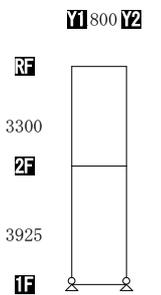
Y1通り



Y2通り

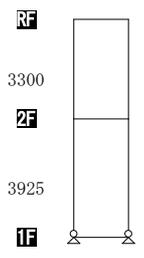


X1通り



X2通り

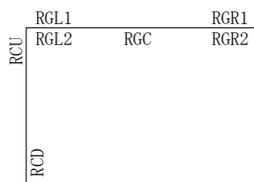
Y1 800 Y2



### 7.4 短期荷重時断面検定比図

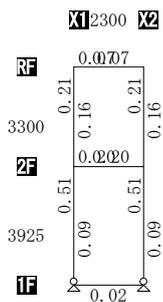
#### 7.4.1 短期荷重時断面検定比図(地震荷重時)

地震荷重時の曲げに関する検定比

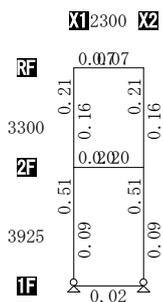


RGL1 : 梁左端の曲げ検定比. RGL2 : 梁左継手の曲げ検定比 (S・SRC)  
 RGR1 : 梁右端の曲げ検定比. RGR2 : 梁右継手の曲げ検定比 (S・SRC)  
 RGC : 梁中央の曲げ検定比  
 RCD : 柱下端の曲げ検定比. RCU : 柱上端の曲げ検定比  
 ※ 検定比が1を超える場合は末尾に \* を表示

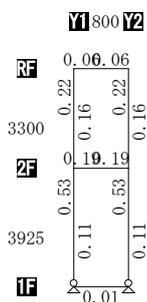
#### Y1通り



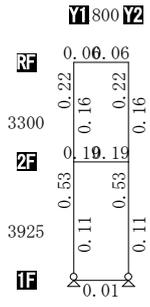
#### Y2通り



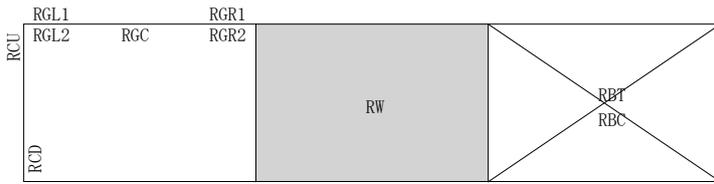
#### X1通り



X2通り

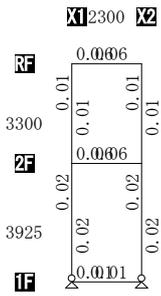


地震荷重時のせん断に関する検定比

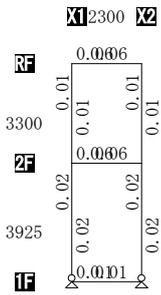


- RGL1 : 梁左端のせん断に関する検定比. RGL2 : 梁左継手のせん断に関する検定比 (S・SRC)
- RGC : 梁中央のせん断に関する検定比
- RCD : 柱下端のせん断に関する検定比. RCU : 柱上端のせん断に関する検定比
- RW : 耐震壁のせん断に関する検定比
- RBT : ブレースの引張軸力に関する検定比. RBC : ブレースの圧縮軸力に関する検定比

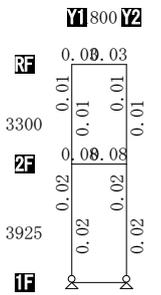
Y1通り



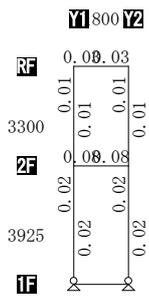
Y2通り



X1通り



X2通り



#### 7.4.2 短期荷重時断面検定比図(風荷重時)

該当するデータが存在しない

#### 7.4.3 短期荷重時断面検定比図(積雪荷重時)

該当するデータが存在しない

#### 7.4.4 短期荷重時断面検定比図(荷重ケース時)

該当するデータが存在しない

## 7.5 柱の断面検定表

### 鉄骨柱の断面計算詳細

#### 計算条件

座屈長倍率：自動計算

二軸曲げ：考慮する

冷間成形角形鋼管の応力割増し：行う（通し、または外ダイアフラム形式）

※応力割増しは、ルート1, 及びルート2・3の場合のSTKR材の最下階柱脚について行う  
最下階柱脚の地震時曲げの採用位置：軸芯

#### 記号の説明

部材の位置：通り名/階名/軸名

NL (kN)：長期の軸力

ML (kN・m)：長期の曲げモーメント

NE (kN)：地震時の軸力

ME (kN・m)：地震時の曲げモーメント

MS (kN・m)：短期の設計曲げモーメント

NS (kN)：短期の設計軸力. + は正加力時、- は負加力時をあらわす

ME' (kN・m)：地震の加力方向に直交する方向に生じている曲げモーメント

QL (kN)：長期のせん断力

QE (kN)：地震時のせん断力

QS (kN)：短期の設計せん断力

Ae (cm<sup>2</sup>)：鉄骨断面の有効断面積

Z<sub>ex</sub>, Z<sub>ey</sub> (cm<sup>3</sup>)：鉄骨断面のy軸回りおよびx軸回りの有効断面係数

l<sub>kx</sub>, l<sub>ky</sub> (m)：X方向およびY方向に関する座屈長さ

λ<sub>x</sub>, λ<sub>y</sub>：X方向およびY方向に関する細長比

l<sub>b</sub> (m)：H形鋼の圧縮フランジの支点間距離

## 1C:X1/1F/Y1

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 6.91, λ <sub>x</sub> = 118.4 l <sub>ky</sub> = 6.83, λ <sub>y</sub> = 117.0 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 66, 短期: 99 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.02 (X方向), 0.02 (Y方向) 短期: 0.46 (X方向), 0.46 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	9		9		
	ML	0	0	0	0	
(検定比)		(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	
短期	NE	22		28		
	ME	15	0	15	0	
	MS	15	0	15	0	
	NS+	31		37		
	NS-	-13		-19		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比)		(0.51)	(0.09)	(0.53)	(0.11)	
	-	(0.43)	(0.02)	(0.44)	(0.02)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	4		4		
(検定比)	QS	4		4		

## 2C:X1/2F/Y1

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 3.60, λ <sub>x</sub> = 61.6 l <sub>ky</sub> = 3.53, λ <sub>y</sub> = 60.5 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 125, 短期: 188 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.06 (X方向), 0.06 (Y方向) 短期: 0.21 (X方向), 0.21 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	7		7		
	ML	1	0	0	0	
(検定比)		(0.06)	(0.02)	(0.06)	(0.02)	
短期	NE	5		7		
	ME	6	5	6	5	
	MS	7	5	6	5	
	NS+	12		14		
	NS-	2		0		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比)		(0.21)	(0.16)	(0.22)	(0.16)	
	-	(0.20)	(0.14)	(0.20)	(0.14)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	3		3		
(検定比)	QS	3		3		

## 1C:X1/1F/Y2

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 6.91, λ <sub>x</sub> = 118.4 l <sub>ky</sub> = 6.83, λ <sub>y</sub> = 117.0 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 66, 短期: 99 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.02 (X方向), 0.02 (Y方向) 短期: 0.46 (X方向), 0.46 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	9		9		
	ML	0	0	0	0	
(検定比)		(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	
短期	NE	22		28		
	ME	15	0	15	0	
	MS	15	0	15	0	
	NS+	31		37		
	NS-	-13		-19		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比)		(0.51)	(0.09)	(0.53)	(0.11)	
	-	(0.43)	(0.02)	(0.44)	(0.02)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	4		4		
(検定比)	QS	4		4		

2C:X1/2F/Y2

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 3.60, λ <sub>x</sub> = 61.6 l <sub>ky</sub> = 3.53, λ <sub>y</sub> = 60.5 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 125, 短期: 188 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.06 (X方向), 0.06 (Y方向) 短期: 0.21 (X方向), 0.21 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	7		7		
	ML	1	0	0	0	
(検定比)		(0.06)	(0.02)	(0.06)	(0.02)	
短期	NE	5		7		
	ME	6	5	6	5	
	MS	7	5	6	5	
	NS+	12		14		
	NS-	2		0		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比) +		(0.21)	(0.16)	(0.22)	(0.16)	
	-	(0.20)	(0.14)	(0.20)	(0.14)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	3		3		
(検定比)	QS	3		3		

1C:X2/1F/Y1

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 6.91, λ <sub>x</sub> = 118.4 l <sub>ky</sub> = 6.83, λ <sub>y</sub> = 117.0 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 66, 短期: 99 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.02 (X方向), 0.02 (Y方向) 短期: 0.46 (X方向), 0.46 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	9		9		
	ML	0	0	0	0	
(検定比)		(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	
短期	NE	22		28		
	ME	15	0	15	0	
	MS	15	0	15	0	
	NS+	31		37		
	NS-	-13		-19		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比) +		(0.51)	(0.09)	(0.53)	(0.11)	
	-	(0.43)	(0.02)	(0.44)	(0.02)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	4		4		
(検定比)	QS	4		4		

2C:X2/2F/Y1

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 3.60, λ <sub>x</sub> = 61.6 l <sub>ky</sub> = 3.53, λ <sub>y</sub> = 60.5 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 125, 短期: 188 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.06 (X方向), 0.06 (Y方向) 短期: 0.21 (X方向), 0.21 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	7		7		
	ML	1	0	0	0	
(検定比)		(0.06)	(0.02)	(0.06)	(0.02)	
短期	NE	5		7		
	ME	6	5	6	5	
	MS	7	5	6	5	
	NS+	12		14		
	NS-	2		0		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比) +		(0.21)	(0.16)	(0.22)	(0.16)	
	-	(0.20)	(0.14)	(0.20)	(0.14)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	3		3		
(検定比)	QS	3		3		

## 1C:X2/1F/Y2

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 6.91, λ <sub>x</sub> = 118.4 l <sub>ky</sub> = 6.83, λ <sub>y</sub> = 117.0 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 66, 短期: 99 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.02 (X方向), 0.02 (Y方向) 短期: 0.46 (X方向), 0.46 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	9		9		
	ML	0	0	0	0	
(検定比)		(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	
短期	NE	22		28		
	ME	15	0	15	0	
	MS	15	0	15	0	
	NS+	31		37		
	NS-	-13		-19		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比)		(0.51)	(0.09)	(0.53)	(0.11)	
	-	(0.43)	(0.02)	(0.44)	(0.02)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	4		4		
(検定比)	QS	4		4		
		(0.02)		(0.02)		

## 2C:X2/2F/Y2

部材断面		□-150x150x6x12 (STKR400)				断面性能 (cm <sup>2</sup> , cm <sup>3</sup> ) Ae = 33.6, Zex = 153, Zey = 153 細長比 l <sub>kx</sub> = 3.60, λ <sub>x</sub> = 61.6 l <sub>ky</sub> = 3.53, λ <sub>y</sub> = 60.5 許容圧縮応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 125, 短期: 188 許容曲げ応力度 (N/mm <sup>2</sup> ) 長期: 156 (X方向), 156 (Y方向) 短期: 235 (X方向), 235 (Y方向) 曲げ・せん断の合成検定比 長期: 0.06 (X方向), 0.06 (Y方向) 短期: 0.21 (X方向), 0.21 (Y方向) 幅厚比 25.0 (FA) 冷間成形角形鋼管の応力割増率 1.40 (X方向), 1.40 (Y方向)
		X方向		Y方向		
		柱頭	柱脚	柱頭	柱脚	
長期	NL	7		7		
	ML	1	0	0	0	
(検定比)		(0.06)	(0.02)	(0.06)	(0.02)	
短期	NE	5		7		
	ME	6	5	6	5	
	MS	7	5	6	5	
	NS+	12		14		
	NS-	2		0		
	ME'	0	0	0	0	
(検定比)		(0.21)	(0.16)	(0.22)	(0.16)	
	-	(0.20)	(0.14)	(0.20)	(0.14)	
長期	QL	0		0		
(検定比)		(0.00)		(0.00)		
短期	QE	3		3		
(検定比)	QS	3		3		
		(0.01)		(0.01)		

## 7.6 梁の断面検定表(長期たわみの検定を含む)

## RC梁の断面計算詳細

## X方向の計算条件

地震時曲げの採用位置： 軸芯  
 設計せん断力のとり方：  $QL + 1.50 \cdot QE$   
 終局曲げ耐力に考慮するスラブ筋： なし  
 最小せん断補強筋比(%)： 0.20  
 限界鉄筋比による付着割裂破壊の検討： 行わない  
 変形増大係数： 8

## Y方向の計算条件

地震時曲げの採用位置： 軸芯  
 設計せん断力のとり方：  $QL + 1.50 \cdot QE$   
 終局曲げ耐力に考慮するスラブ筋： なし  
 最小せん断補強筋比(%)： 0.20  
 限界鉄筋比による付着割裂破壊の検討： 行わない  
 変形増大係数： 8

梁の長期たわみの計算方法： 精算

## 記号の説明

部材の位置： 通り名/階名/梁の左側の軸名  
 B, D (mm)： 梁の幅・せい  
 pt (%)： 引張り鉄筋比  
 pw (%)： せん断補強筋比  
 dt (mm)： コンクリート縁から引張り鉄筋中心までの距離  
 ML (kN・m)： 長期の曲げモーメント  
 ME (kN・m)： 地震時の曲げモーメント  
 MS (kN・m)： 短期の設計曲げモーメント. 「上」は上端引張り時・「下」は下端引張り時  
 MA (kN・m)： 長期または短期の許容曲げモーメント  
 QL (kN)： 長期のせん断力  
 QE (kN)： 地震時のせん断力  
 QS (kN)： 短期の設計せん断力  
 QA (kN)： 長期または短期の許容せん断力  
 $\alpha$ ： 許容せん断力の算出に用いた値  
 $\tau a1$  (N/mm<sup>2</sup>)： 曲げ付着応力度  
 積雪時 MS・QS の ( ) 内は積雪荷重のみによる応力をあらわす

1FG:Y1/1F/X1

( コンクリート : Fc21, 主筋 : SD345, ST : SD295 )

部材断面		B = 300, D = 1500			部材長(m) : 2.30 フェイス長(m) 左 : 0.00 右 : 0.00 内のり長さ(m) : 2.30
		X1 端	中央	X2 端	
主筋	上	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
	下	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
pt (%)		0.18	0.18	0.18	
ST.		2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	
	pw (%)	0.42	0.42	0.42	
dt		77	77	77	
長期	ML	0	-6	0	
	MA (検定比)	222 ( 0.00)	207 ( 0.03)	222 ( 0.00)	
短期	ME	0		0	
	MS 上 下	0 0		0 0	
(検定比)	MA 上 下	357 357		357 357	
	(検定比) 上 下	( 0.00) ( 0.00)		( 0.00) ( 0.00)	
長期	QL α	6 2.00		6 2.00	
	τ a1	0.03		0.03	
QA (検定比)		605 ( 0.01)		605 ( 0.01)	
短期	QE α				
	QS τ a1	6 0.03	0	6 0.03	
QA (検定比)		908 ( 0.01)	908 ( 0.00)	908 ( 0.01)	

1FG:Y2/1F/X1

( コンクリート : Fc21, 主筋 : SD345, ST : SD295 )

部材断面		B = 300, D = 1500			部材長(m) : 2.30 フェイス長(m) 左 : 0.00 右 : 0.00 内のり長さ(m) : 2.30
		X1 端	中央	X2 端	
主筋	上	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
	下	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
pt (%)		0.18	0.18	0.18	
ST.		2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	
	pw (%)	0.42	0.42	0.42	
dt		77	77	77	
長期	ML	0	-6	0	
	MA (検定比)	222 ( 0.00)	207 ( 0.03)	222 ( 0.00)	
短期	ME	0		0	
	MS 上 下	0 0		0 0	
(検定比)	MA 上 下	357 357		357 357	
	(検定比) 上 下	( 0.00) ( 0.00)		( 0.00) ( 0.00)	
長期	QL α	6 2.00		6 2.00	
	τ a1	0.03		0.03	
QA (検定比)		605 ( 0.01)		605 ( 0.01)	
短期	QE α				
	QS τ a1	6 0.03	0	6 0.03	
QA (検定比)		908 ( 0.01)	908 ( 0.00)	908 ( 0.01)	

1FG:X1/1F/Y1

( コンクリート : Fc21, 主筋 : SD345, ST : SD295 )

部材断面		B = 300, D = 1500			部材長(m) : 1.80 フェイス長(m) 左 : 0.00 右 : 0.00 内のり長さ(m) : 1.80
		Y1 端	中央	Y2 端	
主筋	上	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
	下	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
pt (%)		0.18	0.18	0.18	
ST.		2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	
	pw (%)	0.42	0.42	0.42	
dt		77	77	77	
長期	ML	0	-3	0	
	MA (検定比)	222 ( 0.00)	207 ( 0.01)	222 ( 0.00)	
短期	ME	0		0	
	MS 上 下	0 0		0 0	
(検定比)	MA 上 下	357 357		357 357	
	(検定比) 上 下	( 0.00) ( 0.00)		( 0.00) ( 0.00)	
長期	QL α	3 2.00		3 2.00	
	τ a1	0.02		0.02	
QA (検定比)		605 ( 0.00)		605 ( 0.00)	
短期	QE α				
	QS τ a1	3 0.02	0	3 0.02	
QA (検定比)		908 ( 0.00)	908 ( 0.00)	908 ( 0.00)	

1FG:X2/1F/Y1

( コンクリート : Fc21, 主筋 : SD345, ST : SD295 )

部材断面		B = 300, D = 1500			部材長(m) : 1.80 フェイス長(m) 左 : 0.00 右 : 0.00 内のり長さ(m) : 1.80
		Y1 端	中央	Y2 端	
主筋	上	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
	下	2/ 0-D22	2/ 0-D22	2/ 0-D22	
	pt (%)	0.18	0.18	0.18	
ST.		2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	
	pw (%)	0.42	0.42	0.42	
	dt	77	77	77	
長期	ML	0	-3	0	
	MA (検定比)	222 ( 0.00)	207 ( 0.01)	222 ( 0.00)	
短期	ME	0		0	
	MS 上 下	0 0		0 0	
	MA 上 下 (検定比) 上 下	357 357 ( 0.00) ( 0.00)		357 357 ( 0.00) ( 0.00)	
長期	QL α	3 2.00		3 2.00	
	τ a1			0.02	
	QA (検定比)	605 ( 0.00)		605 ( 0.00)	
短期	QE α				
	QS τ a1	3 0.02	0	3 0.02	
	QA (検定比)	908 ( 0.00)	908 ( 0.00)	908 ( 0.00)	

## 鉄骨梁の断面計算詳細

### 計算条件

ウェブの有効率 端部： 1.00, 継手部： 1.00

継手部フランジのボルト穴による断面欠損：考慮する

ウェブの曲げ耐力：考慮する

圧縮フランジの支点間距離：取り付く小梁の間隔とする

梁の長期たわみの計算方法：精算

### 記号の説明

部材の位置：通り名/階名/梁の左側の軸名

$Z_e$  (cm<sup>3</sup>)：鉄骨断面の有効断面係数

$M_L$  (kN・m)：長期の曲げモーメント

$M_E$  (kN・m)：地震時の曲げモーメント

$M_S$  (kN・m)：短期の設計曲げモーメント

$f_b$  (N/mm<sup>2</sup>)：許容曲げ応力度

$l_b$  (m)：圧縮フランジの支点間距離

$Q_L$  (kN)：長期のせん断力

$Q_E$  (kN)：地震時のせん断力

$Q_S$  (kN)：短期の設計せん断力

積雪時  $M_S \cdot Q_S$  の ( ) 内は積雪荷重のみによる応力をあらわす

## 2G:Y1/2F/X1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		X1 端		左継手		中 央		右継手		X2 端	
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0		317.2		0.0		317.2	
ML	0		0		0		0		0		0		0	
fb lb (検定比)	146	2.30	146	2.30	117	2.30	146	2.30	146	2.30	146	2.30	146	2.30
(検定比)	( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)	
ME MS	14	14	0	0			0	0			14	14	14	14
fb (検定比)	222		222				222				222		222	
(検定比)	( 0.20)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.20)		( 0.20)	
QL (検定比)	0		0				0				0		0	
(検定比)	( 0.00)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.00)		( 0.00)	
QE QS	12	12	12	0			12	0			12	0	12	12
(検定比)	( 0.06)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.00)		( 0.06)	
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.00(長期), 0.20(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 2.30, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.0 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定														

## RG:Y1/RF/X1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		X1 端		左継手		中 央		右継手		X2 端	
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0		317.2		0.0		317.2	
ML	1		0		4		0		4		0		1	
fb lb (検定比)	155	0.77	155	0.77	154	0.77	155	0.77	155	0.77	155	0.77	155	0.77
(検定比)	( 0.02)		( 0.00)		( 0.08)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.02)		( 0.02)	
ME MS	4	5	0	0			0	0			4	5	4	5
fb (検定比)	233		233				233				233		233	
(検定比)	( 0.07)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.07)		( 0.07)	
QL (検定比)	7		0				0				7		7	
(検定比)	( 0.06)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.06)		( 0.06)	
QE QS	4	11	4	0			4	0			4	0	4	11
(検定比)	( 0.06)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.00)		( 0.06)	
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.06(長期), 0.09(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 2.30, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.3 (1/8564) 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定														

## 2G:Y2/2F/X1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		X1 端		左継手		中 央		右継手		X2 端	
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0		317.2		0.0		317.2	
ML	0		0		0		0		0		0		0	
fb lb (検定比)	146	2.30	146	2.30	117	2.30	146	2.30	146	2.30	146	2.30	146	2.30
(検定比)	( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)		( 0.00)	
ME MS	14	14	0	0			0	0			14	14	14	14
fb (検定比)	222		222				222				222		222	
(検定比)	( 0.20)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.20)		( 0.20)	
QL (検定比)	0		0				0				0		0	
(検定比)	( 0.00)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.00)		( 0.00)	
QE QS	12	12	12	0			12	0			12	0	12	12
(検定比)	( 0.06)		( 0.00)				( 0.00)				( 0.00)		( 0.06)	
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.00(長期), 0.20(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 2.30, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.0 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定														

## RG:Y2/RF/X1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		左継手		中央		右継手		Y2 端	
	Y1 端											
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0		317.2		0.0	
ML	1		0		4		0		0		1	
fb lb (検定比)	155	0.77	155	0.77	154	0.77	155	0.77	155	0.77	155	0.77
(検定比)	(0.02)		(0.00)		(0.08)		(0.00)		(0.02)		(0.02)	
ME MS	4 5		0 0						0 0		4 5	
fb	233		233						233		233	
(検定比)	(0.07)		(0.00)						(0.00)		(0.07)	
QL	7		0						0		7	
(検定比)	(0.06)		(0.00)						(0.00)		(0.06)	
QE QS	4 11		4 0						4 0		4 11	
(検定比)	(0.06)		(0.00)						(0.00)		(0.06)	
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.06(長期), 0.09(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 2.30, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.3 (1/8564) 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定												

## 2G:X1/2F/Y1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		左継手		中央		右継手		Y2 端	
	Y1 端											
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0		317.2		0.0	
ML	0		0		0		0		0		0	
fb lb (検定比)	149	1.80	149	1.80	130	1.80	149	1.80	149	1.80	149	1.80
(検定比)	(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)	
ME MS	14 14		0 0						0 0		14 14	
fb	227		227						227		227	
(検定比)	(0.19)		(0.00)						(0.00)		(0.19)	
QL	0		0						0		0	
(検定比)	(0.00)		(0.00)						(0.00)		(0.00)	
QE QS	15 15		15 0						15 0		15 15	
(検定比)	(0.08)		(0.00)						(0.00)		(0.08)	
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.00(長期), 0.20(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 1.80, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.0 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定												

## RG:X1/RF/Y1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		左継手		中央		右継手		Y2 端	
	Y1 端											
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0		317.2		0.0	
ML	0		0		0		0		0		0	
fb lb (検定比)	149	1.80	149	1.80	130	1.80	149	1.80	149	1.80	149	1.80
(検定比)	(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)	
ME MS	4 4		0 0						0 0		4 4	
fb	227		227						227		227	
(検定比)	(0.06)		(0.00)						(0.00)		(0.06)	
QL	0		0						0		0	
(検定比)	(0.00)		(0.00)						(0.00)		(0.00)	
QE QS	5 5		5 0						5 0		5 5	
(検定比)	(0.03)		(0.00)						(0.00)		(0.03)	
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.00(長期), 0.06(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 1.80, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.0 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定												

## 2G:X2/2F/Y1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		右継手		Y2 端	
	Y1 端	左継手	中 央	右継手				
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0	
ML	0		0		0		0	
fb lb (検定比)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	130 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	
ME MS	14 14	0 0		0 0	14 14			
fb (検定比)	227 ( 0.19)	227 ( 0.00)		227 ( 0.00)	227 ( 0.19)			
QL (検定比)	0 ( 0.00)	0 ( 0.00)		0 ( 0.00)	0 ( 0.00)			
QE QS (検定比)	15 15 ( 0.08)	15 0 ( 0.00)		15 0 ( 0.00)	15 15 ( 0.08)			
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.00(長期), 0.20(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 1.80, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.0 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定								

## RG:X2/RF/Y1

部材断面	端部 H-250x125x6x9x8 (SS400)		中央 H-250x125x6x9x8 (SS400)		右継手		Y2 端	
	Y1 端	左継手	中 央	右継手				
Ze	317.2		0.0		317.2		0.0	
ML	0		0		0		0	
fb lb (検定比)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	130 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	149 1.80 ( 0.00)	
ME MS	4 4	0 0		0 0	4 4			
fb (検定比)	227 ( 0.06)	227 ( 0.00)		227 ( 0.00)	227 ( 0.06)			
QL (検定比)	0 ( 0.00)	0 ( 0.00)		0 ( 0.00)	0 ( 0.00)			
QE QS (検定比)	5 5 ( 0.03)	5 0 ( 0.00)		5 0 ( 0.00)	5 5 ( 0.03)			
曲げ・せん断の合成応力の検定比 0.00(長期), 0.06(短期) 幅厚比 端部: 6.9(FA)/38.7(FA), 中央: 6.9(FA)/38.7(FA) 部材長(m) 1.80, 中央部の長期たわみ量(mm) 0.0 保有耐力仕口部の検定 保有耐力横補剛の検定								

## 7.7 耐震壁の断面検定表

該当するデータが存在しない

## 7.8 鉛直ブレースの断面検定表

該当するデータが存在しない

## 7.9 柱梁接合部の断面検定表

該当するデータが存在しない

## 7.10 柱脚の断面検定表

別途計算による

## 7.11 柱梁耐力比図(冷間成形角形鋼管)

該当するデータが存在しない

## 8 壁量・柱量

該当するデータが存在しない

## 9 層間変形角

該当するデータが存在しない(計算ルート1のため)

## 10 偏心率・剛性率

## 10.1 偏心率

該当するデータが存在しない(計算ルート1-1のため)

## 10.2 剛性率

該当するデータが存在しない(計算ルート1のため)

## 11 保有水平耐力

該当するデータが存在しない

## 12 基礎・地盤

### 12.1 基礎・杭

---

---

---

---

---

### 12.2 地盤

---

---

---

---

---

### 13 その他の部材

#### 13.1 その他の部材

---

---

---

---

---

## 14 総合所見

---

---

---

---

---

## 15 エコーデータ

```

<BuildingEditor>
<Name dir="X">X1, X2</Name>
<Name dir="Y">Y1, Y2</Name>
<Name dir="Z">1F, 2F, RF</Name>
<Span dir="X">2300</Span>
<Span dir="Y">1800</Span>
<Span dir="Z">3300, 3300</Span>
<ELoad>
  <General>0, 0, 0, 0, 0, 1, 1, 0, 3, 0, 3, 0, 0</General>
</ELoad>
<SnowLoad>0, 20, 0, 0, 0</SnowLoad>
<BaseMat>1, 0, 100, 100</BaseMat>
<BarMat>0, 0, 0, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 40, 50, 0, 0</BarMat>
<SteelMat>0, 0, 0, 0, 0</SteelMat>
<DesignGlobal>1, 1, 1, 0, 1, 1, 0, 1, 0, 2, 0, 0, 0</DesignGlobal>
<DesignRC dir="X">0, 0, 0, 1.5, 1, 0, 1.5, 1, 1, 0, 0, 2, 0, 2, 0.25, 1</DesignRC>
<DesignRC dir="Y">0, 0, 0, 1.5, 1, 0, 1.5, 1, 1, 0, 0, 2, 0, 2, 0.25, 1</DesignRC>
<DesignSteel>1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1</DesignSteel>
<SlabList name="屋根" num="1">
  <LoadValue>0, -1, -1, 0, 1, 0, 1, 0, 1, 0, 1, 0, 1, 0, 1, 0, 1, 0, 1, 0, 0, 0, 0</LoadValue>
</SlabList>
<SlabList name="ヒート" num="2">
  <LoadValue>3, -1, -1, 20, 20, 20, 20, 6, 26, 26, 26, 26, 0, 0, 0, 0, 0, 0</LoadValue>
  <LoadItem name="スラブ" num="1">24, 0.25</LoadItem>
</SlabList>
<SlabName num="1">S1, 0</SlabName>
<SlabName num="2">, -1</SlabName>
<SlabName num="3">, -1</SlabName>
<SlabName num="4">FS, 1</SlabName>
<SubBeamList num="1">1, 150, 150, 7, 10, 8, 0</SubBeamList>
<SubBeamName num="1">B, 0</SubBeamName>
<BaseList num="1">200, 200, 100, 100, 1.98, 1.98, 2.4</BaseList>
<Story name="1F" id="1" mat="0" beams="12" columns="8">
  <Common>1500, 0, -1, 21, 0, 24, 24, 24, 24, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 1, 1, 1, 0, 0, 1, 1, 1, 0, 0, 0, 0</Common>
  <BeamList num="1">0, 300, 1500, 4, 1, 2, 2, 2, 2, 2, 2-200, 2-200, 2-200, 0, 0</BeamList>
  <BeamName num="1">FG, 0</BeamName>
  <ColumnList num="1">1, 2, 150, 150, 6, 12, -0.1, 1, 1, 0, 0, 1</ColumnList>
  <ColumnName num="1">C, 0</ColumnName>
  <NodeInfo x="X1" y="Y1">1, 6, 9, 11, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <NodeInfo x="X1" y="Y2">1, 5, 10, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <NodeInfo x="X2" y="Y1">1, 7, 0, 12, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <NodeInfo x="X2" y="Y2">1, 8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <BeamInfo num="1">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="2">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="3">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="4">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="5">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="6">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="7">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="8">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="9">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>

```

```

<BeamInfo num="10">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="11">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="12">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<ColumnInfo num="5">
  <General>1, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 0, -1</General>
</ColumnInfo>
<ColumnInfo num="6">
  <General>1, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0</General>
</ColumnInfo>
<ColumnInfo num="7">
  <General>1, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0</General>
</ColumnInfo>
<ColumnInfo num="8">
  <General>1, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 0, 0</General>
</ColumnInfo>
<FloorList num="1">1, 2, 1, 2</FloorList>
<FloorInfo num="1">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, 1, 0, 0</General>
  <Slab>4</Slab>
</FloorInfo>
</Story>
<Story name="2F" id="1" mat="0" beams="4" columns="4">
  <Common>250, 0, -1, 21, 0, 24, 24, 24, 24, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 1, 1, 1, 0, 0, 1, 1, 1, 0, 0, 0, 0</Common>
  <BeamList num="1">1, 250, 125, 6, 9, 8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 2, 1, 0, 0, 0</BeamList>
  <BeamName num="1">G, 0</BeamName>
  <ColumnList num="1">1, 2, 150, 150, 6, 12, -0.1, 1, 1, 0, 0, 0</ColumnList>
  <ColumnList num="2">1, 0, 250, 250, 9, 14, 13, 1, 1, 0, 0, 0</ColumnList>
  <ColumnName num="1">C, 0</ColumnName>
  <NodeInfo x="X1" y="Y1">1, 1, 1, 3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <NodeInfo x="X1" y="Y2">1, 2, 2, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <NodeInfo x="X2" y="Y1">1, 4, 0, 4, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <NodeInfo x="X2" y="Y2">1, 3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
  <BeamInfo num="1">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="2">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="3">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <BeamInfo num="4">
    <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
  </BeamInfo>
  <ColumnInfo num="1">
    <General>1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, 0</General>
  </ColumnInfo>
  <ColumnInfo num="2">
    <General>1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, -1</General>
  </ColumnInfo>
  <ColumnInfo num="3">
    <General>1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, 0</General>
  </ColumnInfo>
  <ColumnInfo num="4">
    <General>1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, 0</General>
  </ColumnInfo>
  <FloorList num="1">1, 2, 1, 2</FloorList>
</Story>
<Story name="RF" id="1" mat="1" beams="8" columns="4">
  <Common>250, 0, -1, 21, 0, 24, 24, 24, 24, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 1, 1, 1, 0, 0, 1, 1, 1, 0, 0, 0, 0</Common>
  <BeamList num="1">1, 250, 125, 6, 9, 8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 2, 1, 0, 0, 0</BeamList>
  <BeamName num="1">G, 0</BeamName>
  <ColumnList num="1">1, 2, 150, 150, 9, 18, -0.1, 1, 1, 0, 0, 9, 1</ColumnList>
  <ColumnList num="2">1, 0, 250, 250, 9, 14, 13, 1, 1, 0, 0, 0</ColumnList>
  <ColumnName num="1">C, 0</ColumnName>

```

```

<MemberLoad num="1" name="EV籠">
  <General>0, 2, 3</General>
  <LoadType type="1" both="0">0.77, 0.75, 3, 3</LoadType>
</MemberLoad>
<NodeInfo x="X1" y="Y1">1, 0, 5, 7, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
<NodeInfo x="X1" y="Y2">1, 0, 6, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
<NodeInfo x="X2" y="Y1">1, 0, 0, 8, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
<NodeInfo x="X2" y="Y2">1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0</NodeInfo>
<BeamInfo num="1">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="2">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="3">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="4">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="5">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, -1, 1, 1, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="6">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, -1, 1, 1, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="7">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<BeamInfo num="8">
  <General>1, 1, 0, 0, 0, -1, -1, 1, 1, 0, 0, 0</General>
</BeamInfo>
<FloorList num="1">1, 2, 1, 2</FloorList>
<FloorInfo num="1">
  <General>3, 1, 0, 0, 2, 3, 0, 0</General>
  <SubBeam num="1">1, 5, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0</SubBeam>
  <SubBeam num="2">2, 6, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0</SubBeam>
  <Slab>1, 1, 1</Slab>
</FloorInfo>
</Story>
</BuildingEditor>

```

EV

構造計算書（計 88 頁）

建築物名称 : EV

プログラム名称 : ビルディング・エディタ

プログラム実行機種・OS :

構造設計事務所名 :

担当者名 :

資格 (建築士登録番号等) :

連絡先・電話番号 :

構造設計協力事務所名 :

担当者名 :

資格 (建築士登録番号等) :

連絡先・電話番号 :

## 目次

1. 一般事項	
1.1 建築物の構造設計概要	1
1.2 略伏図	
1.2.1 床伏図	2
1.3 略軸組図	
1.3.1 略軸組図	3
1.4 断面リスト	
1.4.1 断面リスト	5
2. 設計方針と使用材料	
2.1 構造設計方針	
2.1.1 構造設計方針	8
2.1.2 設計上準拠した指針・規準等	8
2.2 構造計算方針	
2.2.1 構造計算方針	8
2.2.2 使用プログラムその他	8
2.2.3 計算ルート	9
2.3 使用材料・許容応力度	
2.3.1 使用材料と使用箇所	11
2.3.2 許容応力度・材料強度	12
2.4 特別な調査又は研究の結果による場合	12
3. プログラムの使用状況	
3.1 チェックリスト	13
3.2 メッセージ一覧	32
3.2.1 適用範囲外メッセージの一覧	32
3.2.2 警告メッセージの一覧	32
3.2.2 注意メッセージの一覧	32
3.3 特別な調査又は研究の結果による場合	32
4 荷重・外力	
4.1 固定荷重	33
4.2 積載荷重	34
4.3 常時荷重時の条件	34
4.4 積雪荷重	
4.4.1 積雪荷重に関する係数など	35
4.5 風圧力	
4.5.1 風荷重に関する係数など	36
4.5.2 風荷重時受風面積	36
4.6 地震力	
4.6.1 地震力に関する係数など	37
4.6.2 建築物重量と地震力	37
4.7 追加荷重ケース	38
4.8 その他の荷重	39
5 準備計算	
5.1 剛性に関する計算条件	
5.1.1 剛性に関する計算条件	41
5.2 柱・梁の基本応力	
5.2.1 大梁のCMQ図	42
5.2.2 柱のCMQ図	43
5.3 節点重量	
5.3.1 常時の節点重量	44
5.3.2 積雪荷重時の節点重量	44
5.3.3 地震荷重時の節点重量	45
6 応力解析	
6.1 架構モデル	

6.1.1	建築物の規模・各階の構造種別	46
6.1.2	モデル化共通条件	46
6.1.3	構造モデル図	47
6.1.4	支点条件	48
6.1.5	部材接合個別入力条件	48
6.2	鉛直荷重時	
6.2.1	常時荷重時応力図	49
6.2.2	積雪荷重時応力図	52
6.2.3	常時荷重時軸力図	53
6.2.4	積雪荷重時軸力図	54
6.3	水平荷重時	
6.3.1	地震荷重時応力図	55
6.3.2	風荷重時応力図	58
6.3.3	追加荷重ケース時応力図	58
6.3.4	分担率	59
6.4	支点反力図	61
7	断面検定	
7.1	断面検定方針	62
7.2	検定用応力組合せ一覧表	62
7.3	長期荷重時断面検定比図	63
7.4	短期荷重時断面検定比図	
7.4.1	短期荷重時断面検定比図(地震荷重時)	67
7.4.2	短期荷重時断面検定比図(風荷重時)	70
7.4.3	短期荷重時断面検定比図(積雪荷重時)	70
7.4.4	短期荷重時断面検定比図(荷重ケース時)	70
7.5	柱の断面検定表	71
7.6	梁の断面検定表(長期たわみの検定を含む)	75
7.7	耐震壁の断面検定表	81
7.8	鉛直ブレースの断面検定表	81
7.9	柱梁接合部の断面検定表	81
7.10	柱脚の断面検定表	81
7.11	柱梁耐力比図(冷間成形角形鋼管)	81
8	壁量・柱量	81
9	層間変形角	81
10	偏心率・剛性率	
10.1	偏心率	81
10.2	剛性率	81
11	保有水平耐力	82
12	基礎・地盤	
12.1	基礎・杭	83
12.2	地盤	83
13	その他の部材	
13.1	その他の部材	84
14	総合所見	85
15	エコーデータ	86